

大正大学蔵『源氏物語』翻刻（帚木・空蟬）

翻刻の経緯

一 本翻刻は、大正大学附属図書館によって貴重書画像として公開（ホームページ）されている大正大学本源氏物語を、パソコン教室でのリーディングの形式によって授業に取り入れたものである。

一 翻刻は、平成二十年より日本語日本文学コースの授業「古典文学研究」における翻刻を基にして、それぞれ巻別の翻刻担当者によって精査したものである。

一 翻刻にあたっては、学修研究のためであるので、変体仮名の字母漢字も並列表記したところに特色がある。

一 当該授業は現在もおこなわれており、翻刻されたものは順次公開していく。

大正大学本源氏物語翻刻凡例

一 本翻刻は、大正大学附属図書館貴重書画像公開（ホームページ）から翻刻し、不明瞭なところは原本と照合する方法によった。

一 翻刻における頁の表記は、検索の便宜を図るため、ホームページにおける頁数を使用して、さらにその左右を明記した。

例【桐壺】27右

大正大学蔵『源氏物語』翻刻（帚木・空蟬）

大場 朗

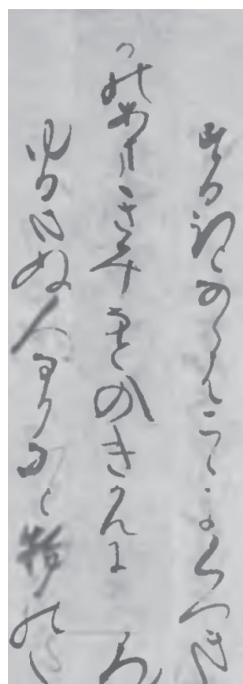
魚尾 孝久

一 翻刻にあたっては、「変体仮名字母漢字（青色）」と「平仮名（黒色）」を並列表記した。

例 以徒蓮乃御時尔可女御更衣安未多左不良
いつれの御時にか女御更衣あまたさふら

一 附箋によって添付されている場合は、ホームページにしたがい、附箋のみの頁と本文の頁とにわけて翻刻をした。

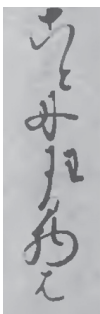
例 附箋（可能安万幾美奈止乃幾可无尔）
（かあまきみなとのきかに）



一行間の文字および補入文字は（ ）にて本文に入れた。

例 古止丹尔（王）留物者
ことに（わ）る物は

民部（少輔）乃
民部（少輔）の



一 見せ消ちは、そのまま表記して、「――」取り消し線を伏した。

例 「かゆ」

一 字母漢字は、旧字と略字が混用されているが、翻刻にあたっては通行体表記とした。

例 「禮」↓「礼」 「傳」↓「伝」

一 漢字は、旧字体と略字体とが混用されているが、通行体表記とした。

例 「國」↓「国」 「繪」↓「絵」

「哥」↓「歌」 「佛」↓「仏」

「聲」↓「声」

一 当て字は、そのまま表記した。

例 「さか月」(杯) 「伊与」(伊予)

一 当翻刻における巻別の担当責任者は、次の通りである。

「帚木」 首藤 卓哉

「空蟬」 魚尾 和瑛

(魚尾 孝久)

【帚木】 3 左

光源氏奈乃三古止く志宇以比氣多礼太末不
光源氏なのみことくしういひけたたまふ

止可於保可奈留丹以止、閑、類春起已止、毛遠
とかおほかなるにいと、かゝるすきこと、もを

寸惠乃世尔毛幾、徒多部天可呂飛多留名遠也
す糸の世にもきゝつたへてかろひたる名をや

奈可左武止志乃比給氣留可久路部已止遠左部可多利
なかさむとしのひ給けるかくろへことをさへかたり

川多部希無人乃物以比左可奈左与左累八以止以
つたへけむ人の物いひさかなさよさるはいとい

多久世遠者、可利満女多地給希留本止奈与比可
たく世をはゝかりまめたち給けるほとなよひか

尔於可之幾事八奈久伝可多乃、少将尔八王良八礼
におかしき事はなくてかたの、少将にはわらはれ

太末飛希无可之末中将奈止尔毛乃之給之時
たまひけんかしました中将などにものし給し時

者宇知尔乃三左不良飛与宇之給天於保以殿尔八
はうちにのみさふらひようし給ておほい殿には

【帚木】 4 右

多衣く満可天太末不亭乃乃三多礼屋止宇多可比幾
たえくまかてたまふしのふのみたれやとつたかひき

己遊留已止毛安利之可止左之毛安多女起免奈礼多留
こゆることもありしかとさしもあためきめなれたる

宇知徒希乃春起く之左奈止八己能末之可良奴
うちつけのすきくしきなどはこのましからぬ

御本无上尔天末礼尔八安奈可知尔比起太可部
御ほん上にてまれにはあなちひきたかへ

心徒久之奈累已止遠御心尔於保之止、武累久世
心つくしなることを御心におほしと、むるくせ

奈武安也尔久尔天左流末之幾御布留末比毛
なむあやにくにてさるましき御ふるまひも

宇知末之里氣留奈可雨者連万奈起己呂内乃
うちましりけるなか雨はれまなきころ内の

御物忌左之徒、幾天以止、奈可并左不良飛太末不遠
御物忌さしつゝきていと、なかゐさふらひたまふを

於本止乃尔八於保川可奈久宇良女志久於保志多礼止
おほとにはおほつかなくうらめしくおほしたれと

【帚木】 4 左

与呂徒乃御与曾比奈尔久礼止女川良之起左満尔
よろつの御よそひなにくれとめつらしきさまに

天宇之以天給川、御武寸己乃君多地堂、己乃
てうしいて給つゝ御むすこの君たちたゝこの

御止能井所丹宮徒可部遠川止女太末不宮八良乃
御とのゐ所に宮つかへをつとめたまふ宮はらの

中将八奈可尔志多之久奈礼幾古衣給天安楚
中将はなかにしたしくなれきこえ給てあそ

飛多八不連遠毛人与利八心屋春久奈礼く之久
ひたはふれをも人よりは心やすくなれくしく

布留末比多利右乃於止、能以多者利可之徒幾
ふるまひたり右のおとゝのいたはりかしつき

給寸見可者此君毛以止物宇久志天寸起可末之幾
給すみかは此君もいと物うくしてすきかましき

安多人奈利左止尔天毛我可多能志徒良比末者
あた人なりさにとても我かたのしつらひまは

由久志天君乃出入之給尔宇知川礼幾古衣給川、
ゆくして君の出入し給にうちつれきこえ給つゝ

【帶木】 5 右

【帶木】 5 左

【帶木】 6 右

【帶木】 6 左

与留比留可久毛无遠毛安楚比遠毛呂止毛丹
よるひるかくもんをもあそひをももるともに

奈留布見止毛遠比起以天、中将王利奈久遊
なるふみともをひきいて、中将わりなくゆ

可也宇尔於保曾宇奈留三川之奈登尔宇地遠起
かやうにおほそうなるみつしなどにうちをき

己乃徒之毛心与久比良久部幾止乃給部八御覽之
このつしも心よくひらくへきとの給へは御覽し

志天遠左く多地遠久連寸以徒尔天毛末川者礼
してをさくたちをくれすいつくにてもまつはれ

可之閑札者左利奴部幾寿己之者美世无可多八
かしかれはさりぬへきすこしはみせんかたは

知良之給部久毛安良寸不可久止利遠起給部可女
ちらし給へくもあらずふかくとりをき給へかめ

所安良无古曾加多久侍良女奈登幾古衣給徒以
所あらんこそかたく侍らめなときこえ給つい

幾古衣太末不本止耳遠乃徒可良可之己末利毛衣遠
きこえたまふほとにをのつからかしこまりもえを

奈類部幾毛古楚登由類之堂万八称者曾乃
なるへきもこそゆるしたまはねはその

連者古礼八二乃末知乃心屋春起奈留部之加多
れはこれは二のまちの心やすきなるへしかた

天丹女濃己礼八志毛止奈武徒久末之幾八可
てに女のこれはしもとなむつくましきはか

可寸心乃中丹於毛不事遠毛閑久之安部須奈武
かす心の中におもふ事をまかくしあへすなむ

宇知止気天可多八良以多之登於本左礼无己楚
うちとけてかたはらいたしとおほさんこそ

者之徒、美留耳与具左満く奈留物止毛己曾侍
はしつゝみるによくさまくなる物ともこそ侍

多久毛安類加那止屋宇く奈無美給部志累多、
たくもあるかなとやうくなむみ給へしたゝ

武川礼幾己衣給氣留川連く登布利久良之伝
むつれきこえ給けるつれくとりくらしして

由可之希礼遠之奈部多累於保可多乃八可寸奈
ゆかしけれをしなへたるおほかたのはかすな

氣連止天心安天丹楚礼可閑連可奈止止不中尔
けれどて心あてにそれかかれかなとふ中に

宇者部者可利乃奈佐氣尔天波之里可起於利
うはへはかりのなさけにてはしりかきおり

志女也可奈留与比乃雨尔殿上尔毛遠左く人春
しめやかなるよひの雨に殿上にもをさく人す

良称止保止く丹川気天可起加八之徒、毛美侍
らねとほとくにつけてかきかはしつゝもみ侍

以比安徒留毛阿利毛天者奈礼多留古止越毛思
いひあつるもありもてはなれたることをも思

不之乃以良部心衣天宇地之奈止者可利八寸以分尔
ふしのいらへ心えてうちしなとはかりはすい分に

久奈尔御止乃井所毛連以与利者能止屋可奈留
くなに御とのぬ所もれいよりはのとやかなる

奈无遠乃可志、宇良女之幾於利く未知可本奈
なんをのかしゝうらめしきおりくましかはな

与世天宇多可不毛於可之止於本世止己止寸久奈尔天
よせてうたかふもおかしとおほせとことすくなにて

与呂之幾毛於本可利止美給不連止曾毛満己止丹
よろしきもおほかりとみ給ふれとそもまことに

心知寸留耳於保止奈布良地可久天不見止毛奈
心ちするにおほとなふちかくてふみともな

良武夕暮奈止乃己曾美所八安良女止惠无寸
らむ夕暮などこそみ所はあらめとゑんす

止可久満幾良八之徒、止利可久之給川楚己仁
とかくまきはしつゝとりかくし給つそこに

曾能可多遠止利以天无衣良飛尔可奈良寸毛流末之
そのかたをとりいてんえらひにかならするまし

止見給徒以天尔知可起美川之奈留色々能可三
とみ給ついてにちかきみつしなる色々のかみ

連者也武古止奈久世知仁可久之給部幾奈止者
れはやむことなくせちにかくし給へきなどは

古曾於本久徒止部給良女寸己之美者也左天奈武
こそおほくつとへ給らめすこしみはやさてなむ

幾八以登可多之也我心衣多累事者可利越遠乃可
きはいとかたしや我心えたる事はかりををのか

【帯木】 7 右

志、心遠屋利天人遠者於止之女奈止可多八良以し、心をやりて人をはおとしめなとかたはらい

多起事於保可利於也奈止多地曾比毛天安可女天たき事おほかりおやなとたちそひもてあかめて

老左起古毛礼累窓乃宇知奈留本止者多、可多老さきこもれる窓のうちなるほとはた、かた

可止越幾、徒多部伝心遠宇古可寸己止毛安女利かとをき、つたへて心をうかすこともあめり

閑多知於可志久宇知於保止起王可屋可尔天末起かたちおかしくうちおほときわかやかにてまき

類、己止奈起本登者可奈起寸左比遠毛人る、ことなきほとはかなきすすひをも人

末祢尔心遠以累、己止毛安留耳遠乃川可良飛まねに心をいる、こともあるにをのつからひ

止川由部徒気天之出留己止毛阿利美留人遠久とつゆへつけてし出ることありみる人をく

連多留可多遠者以比可久之左天安利奴部幾可多れたるかたをはいひかくしてありぬへきかた

【帯木】 7 左

遠者徒久呂比天末祢比以多寸尔曾礼志可安良をはつくるひてまねひいたすにそれしかあら

志登楚良丹以可、八於之者可利思久多左武満己止しとそらにいか、はおしはかり思くたさむまこと

可止美毛天遊久尔美遠止利世奴屋宇八奈久奈無かとみもてゆくにみをとらせぬやうはなくなむ

安類部幾止宇女起多留氣之幾毛者徒可之氣あるへきとうめきたるけしきもはつかしけ

奈礼者以止奈部天八安良祢止我毛於本之安者寸留なれはいとなへてはあらねと我もおほしあはする

己止也安良无宇知本、恵三天曾乃可多加止毛奈起ことやあらんうちほ、ゑみてそのかたかともなき

人者安良武也止乃給部者以登左者可利奈良無安人はあらむやとの給へはいとさはかりならむあ

多利尔八太連可者寸可佐連与里侍良无止類可多たりにしたれかはすかされより侍らんとるかた

奈久久地於之幾、八止以宇奈利止於本遊八可利なくちおしき、はというなりとおほゆはかり

【帯木】 8 右

寸八礼多留止者可寸飛止志久己曾侍良女人乃すぐれたるとはかすひとしくこそ侍らめ人の

志奈多可久武末礼奴連者人尔毛天可之徒可連天しなたかくむまれぬれは人にもてかしつかれて

可久類、事於本久志祢无尔楚能氣者比古与奈かくる、事おほくしねんにそのけはひこよな

可留部之中乃志奈尔奈武人乃心、遠乃可志、かるへし中のしになむ人の心、をのかし、

能多天堂留於毛武幾毛美衣天王可類部幾己止可多のたてたるおもむきもみえてわかるへきことかた

、於本可留部幾志毛乃幾佐三止以不幾八尔奈、おほかるへきしものきさみといふきはにな

連者古止尔見、多、寸可之止天以止久万奈氣れはことにみ、た、すかしとていとくまなけ

奈累希之幾奈留毛由可之久天曾乃志奈、也なるけしきなるもゆかくてそのしなくや

以可尔以川連遠三乃志奈尔遠幾天可王久部支いかにいつれを三のしなをきてかわくへき

【帯木】 8 左

毛止乃志奈堂可久武万連奈可良身八志川見もとのしなたかくむまれなから身はしつみ

久良并三之可久天人氣奈起又奈越人乃可无太くらぬみしかくて人けなき又なを人のかんた

知女奈止末天奈利乃本利我八可本尔天家農ちめなどまてなりのほり我はかほにて家の

中遠可左利人尔於止良志登於毛部累曾能氣中をかさり人におとらしとおもへるそのけ

知女遠者以可、王久部幾止、飛堂末不程尔左乃ちめをはいか、わくへきと、ひたまふ程に左の

馬乃可三藤式部乃世宇御物忌尔己毛良无止天馬のかみ藤式部のせう御物忌にこもらんとて

万以連流世乃寸起毛乃尔天毛乃与久以比止本まいれる世のすきものにてものよくいひとほ

連累遠中将末地止利天古乃志那、遠王起れるを中将まちとりてこのしなくをわき

末部左多女安良楚不以止幾、尔久幾己止於本可利まへさためあらそふいとき、にくきことおほかり

【帯木】 9 右

奈利乃本礼止毛登与利左類部幾春知奈良
 なりのはれとももとよりさるへきすぢなら

奴者世乃人能於毛部流己止毛左八以部止奈越古止
 ぬは世の人のおもへることもさはいへとなをこと

奈利又毛止八屋武己止奈起寸知奈礼止毛世耳
 なり又もとはやむことなきすぢなれとも世に

婦留多川起春久奈久時代宇川呂比天於本衣於
 ふるたつきすくなく時代うつろひておほえお

止呂部奴連者心者古、呂止之天己止多良寸王
 とろへぬれは心はこゝろとしてことたらずわ

路飛多留己止、毛以天久流王左奈女礼者とりく
 ろひたることゝもいてくるわさなめれはとりく

尔古止八利伝中乃志那尔楚遠久部幾春里也宇
 にことはりて中のしなにそをくへきすりやう

止比天人乃国乃古止耳可、川良比以止奈見
 といひて人の国のことにかゝつらひいとなみ

天志奈左多末利多累中尔毛末多幾佐三く
 てしなきたまりたる中にもまたきさみく

【帯木】 9 左

安利天中乃品能氣之宇八安良奴衣利出徒部
 ありて中の品のけしうはあらぬえり出つへ

幾己呂本比奈利奈万く濃可无多知女与利
 きころほひなりなまくのかんたちめより

毛飛左无幾乃四位止毛乃世乃於本衣久知遠之
 もひさんきの四位どもの世のおほえくちをし

可良須毛止能祢左之以屋之可良奴可屋春良可尔身
 からすもとのねさしいやしからぬかやすらかに身

遠毛天奈之布留末比多留以登可八良加奈利也
 をもてなしふるまひたるいとかはらかなりや

家乃宇地尔多衣奴事奈止者多奈可女累末、尔
 家のうちにたえぬ事などはたなかめるまゝに

者不可寸末者由幾末天毛手可之徒氣留武寸女奈
 はふかすまはゆきまでもてかしつけるむすめな

止乃於止之女可多久於比以徒留毛安末多安類部之
 とのおとしめかたくおひつるもあまたあるへし

宮徒可部丹出多知天思可氣奴左以者井止利井川留
 宮つかへに出たちて思かけぬさいはぬといつる

【帯木】 10 右

太女之止毛於本可留閑之奈止以部者春部天仁幾八、
 ためしともおほかるかしなといへはすへてにきは、

之幾尔与留部幾奈武奈利止天王良飛給遠古止
 しきによるへきなむなりとてわらひ給をこと

人乃以者无屋尔心衣寸於本世良類、止中将
 人のいはんやうに心えすおほせらるゝと中将

尔久武毛止乃志那時世乃於本衣宇地安比也武
 にくむものしな時世のおほえうちあひやむ

己止奈起安多利乃字知く能毛天奈之氣八比
 ことなきあたりのうちくのもてなしけはひ

遠久礼多良无八左良尔毛以者寸奈尔遠之天可久
 をくれたらんはさらにもいはすなにをしてかく

於比出介无止以不可比奈久於本由部之字知
 おひ出けんといふかひなくおほゆへしうち

安比天春久礼多良无毛己止八利古連己曾
 あひてすぐれたらんもことほりこれこそ

八左留部幾己止、於保衣天女川良可奈留己止、心毛
 はさるへきこと、おほえてめつらかなることゝ心も

【帯木】 10 左

於止呂久末之奈尔可之可於与不部幾保止奈良祢
 おとろくましなにかしかおよふへきほととなね

者可見可加美八宇知遠起侍奴左天世尔安利止人尔
 はかみかかみはうちをき待ぬさて世にありと人に

志良礼春左比之久安者礼多良無武久良乃
 しられすさひしくあはれたらむむくらの

可登尔思能外尔良宇堂氣奈良无人乃止地良
 かとに思の外にらうたけならん人のとちら

連多良无古曾閑幾利奈久女川良志久八於本衣女
 れたらんこそかきりなくめつらしくはおほえめ

以可天者多可、利希武止於毛不与利太可部流事奈武
 いかてはたかゝりけむとおもふよりたかへる事なむ

安屋志久心止末留王左奈留知、乃止之於以物
 あやししく心とまるわさなるちゝのとしおい物

武徒可之氣尔布止利寸起世宇止乃可本尔久遣
 むつかしけにふとりすきせうとのかほにくけ

尔思屋利己止奈留事奈起祢也能中尔以止
 に思やりことなる事なきねやの中にいと

【帯木】 11右

以多久思安可利者可奈久志出多留己止王左毛遊部奈可良寸

いたく思あかりはかなくし出たることわざもゆへなからす

美衣多良武可多加止丹天毛以可、思乃本可尔於可之みえたらむかたかとにてもいか、思のほかにおかし

可良左良无春久礼天幾寸奈起可多能衣良比尔己曾からさらにすくてきすなきかたのえらひにこそ

於与者佐良女左類可多耳天春起可多幾物遠八止天およはさらめさるかたにてすきかたき物をはとて

式部遠美屋連者我以毛宇止、毛能与呂之幾、式部をみやれば我いもつと、ものよろしき、

古衣安累遠於毛比天乃給尔也止也心宇覽物毛こえあるをおもひての給にやとや心う覽物も

以者寸以天也可三乃志那止於毛不尔多丹可多氣奈留いはすいてやかみのしなとおもふにたにかたけなる

世遠登君八於本寸部之志呂幾御楚止毛能奈与、世をと君はおほすへししろき御そとのなよ、

可奈累丹奈越之者可利遠志止希奈久幾奈之かなるになをしかりをしとけなくきなし

【帯木】 11左

給天比毛奈止毛宇地寸天、曾比不之給部累御給てひもなともうちすて、そひふし給へる御

本可計以止女天多具女尔天美多天末川良万本之ほかけいとめてたく女にてみててまつらまほし

古乃御多女尔波可三可上遠衣利出天毛猶安久満この御ためにはかみか上をえり出ても猶あくま

志久美衣給左万く乃人乃宇遍止毛遠可多利安八世しくみえ給さまくの人のうへともをかたりあはせ

徒、於保可多能世尔川氣天美留尔八止可奈起毛我物つ、おほかたの世につけてみるにはとかなきも我物

止宇知堂乃武部幾遠衣良八无尔於保可留中尔毛とうちたのむへきをえらはんにおほかる中にも

衣奈無思左多武末志閑利計留遠乃古能於本也えなむ思さたむましかりけるをのこのおぼや

希尔徒可不末川利者可く之起世乃可多女止奈留部幾けにつかふまつりはかくしき世のかためとなるへき

毛満己止乃宇川八物止奈留部幾遠止利以多左无尔八もまことのうつは物となるへきをとりいたさんには

【帯木】 12右

可多可累部之可之左礼止可之古之止天毛飛止利不多利かたかるへしかしされとかしこしとてもひとりふたり

世能中遠末川利已知志類部幾奈良称者可三八志毛尔世の中をまつりこちしるへきならねはかみはしもに

多寸希良連志毛八可見尔奈比幾天己止日呂幾尔たすけられしもはかみなひきてことひろきに

由徒呂不良无世者起家乃宇地乃安類之止寸部幾ゆつろふらんせはき家のうちのあるしとすへき

人比止利遠思女久良寸尔多良八天安之可留部幾大事人ひとりを思めぐらすにたらはてあしかるへき大事

止毛奈武可多く於本可留止安礼者可、利安不左幾累ともなむかたくおほかるとあればかゝりあふさきを

左尔天奈乃女尔左天毛安利奴部幾人能寸久奈起遠さにてなのめにさてもありぬへき人のすくなきを

春起く之幾心乃春左比尔天人乃安利左万遠すきくしき心のすさひにて人のありさまを

安末多美安者世無能己乃三奈良称止飛止部耳あまたみあはせむのこのみならねとひとへに

【帯木】 12左

思左多武部幾与留部止寸者可利丹於奈之久八思さたむへきよるへとすはかりにおなしくは

我知可良以利遠志奈越之日起徒久呂不部幾所奈久我ちからいりをしなをしひきつくるふへき所なく

心尔可奈不也宇毛也止衣利楚女川留人乃左多末利心にかなふやうもやとえりそめつる人のさたまり

可多起奈留部之可奈良須之毛王可於毛不尔可奈八年止かたきなるへしかならずしもわかおもふにかなはねと

美曾女徒留契者可利遠寸天可多久思比登末留みそめつる契はかりをすてかたく思ひとまる

人者物万女也可奈礼止美衣左天多毛多類、女乃人は物まめやかなりとみえさてたもたる、女の

多女毛心尔久、於之者可良類、也左礼止奈尔可世乃ためも心にく、おしはからる、也されとなにか世の

安利左満遠美多末部安川武留末、丹心尔於与者寸ありさまをみたまへあつむるま、に心におよはす

以止由可之起己止毛奈之也君多地乃可三奈起御いとゆかしきこともなしや君たちのかみなき御

【帶木】 13 右

【帶木】 13 左

【帶木】 14 右

【帶木】 14 左

衣良飛尔八末之天以可者可利乃人可八多久飛給八无
えらひにはましていかばかりの人かはたくひ給はん

左氣尔比起己女良礼天止利奈世者安太女具
さけにひきこめられてとりなせはあためく

寸末比与起安之幾事乃尔毛見、尔毛止末留
すまひよきあしき事のめにもみ、にもとまる

幾為多良无八以可、者久地於之可良奴堂、飛多
きぬたらんはいか、はくちおしからぬた、ひた

所世久思不給部奴尔太尔閑多知幾多奈氣奈久
所せく思ふ給へぬにたにかたちきたなけなく

古礼遠波之女乃奈无止寸部之古止可中尔奈
これをはしめのなんとすへしことか中にな

安利佐万越宇止起人尔王左止宇地末称者无也八
ありさまをうとき人にわざとうちまねはんやは

布類丹己女幾天屋八良可奈良无人遠止可久日起
ふるにこめきてやはらかならん人をとかくひき

王可屋可奈留保止乃遠能可志、八知利毛徒可之登
わかやかなるほとのをのかし、はちりもつかしと

乃女奈留末之幾人乃宇之呂三能可多八物乃安者
のめなるましき人のうしろみのかたは物のあは

知可久天美无人能幾、王起思日志類部可良无丹可
ちかくてみんなのき、わき思ひしるへからんにか

徒久呂比天者奈止可見左良无心毛止奈久止毛
つくろひてはなとかみざらん心もなくなるとも

身遠毛天奈之文遠可氣止於保止可尔古止衣利
身をもてなし文をかけとおほとかにことえり

連志利春久之者可奈起徒為天乃奈左希安利
れしりすくしはかなきつぬてのなさけあり

多利毛安者世八也止宇知毛惠末礼涙毛左之久三
たりもあはせはやとうちもゑまれ涙もさしくみ

奈越之所安累心地春部之氣尔左之武可比天
なをし所ある心ちすへしけにさしむかひて

遠之春見川起本乃可尔心毛止奈久思八世川、
をしすみつきほのかに心もとなく思はせつ、

於可之幾尔春、女累可多奈久伝毛与可類部之
おかしきにす、めるかたなくてもよかるへし

毛之八安也奈起於本也氣者良多、志久心比止川
もしはあやなきおほやはらた、しく心ひとつ

三无保止者左天毛良宇多起可多尔徒三遊留之
みんぼとはさてもらうたきかたにつみゆるし

又左也可尔毛美天之可那止春部奈久末多世王川可
又さやかにみてしかなとすへなくまたせわつか

止美衣多累丹又末女、之起春知遠多天、三、
とみえたるに又まめくしきすちをたて、み、

丹思安未留古登奈止於本可留遠奈尔、可八幾可
に思あまることなとおほかるをなに、かはきか

美類部幾遠立者奈礼天左留部幾事遠毛以飛
みるへきを立はなれてさるへき事をいひ

奈留己惠幾久者可利以比与礼止以幾能之多尔
なるこゑきくはかりいひよれといきのしたに

者佐三可知尔比左宇奈起家止宇之能比止部
はさみかちにひさつなき家とうしのひとへ

世武止思部者宇知曾武可礼天人志連奴思日出
せむと思へはうちそむかれて人しれぬ思ひ出

屋利於利不之丹志以天無王左乃安多己止尔毛
やりおりふしにしていむわさのあたことにも

比起以連己止春久奈、流可以登与久毛天可久寸
ひきいれことすくな、るかいとよくもてかくす

尔宇地止氣多留宇之路三者可利遠之天安左夕
にうちとけたるうしろみはかりをしてあさ夕

王良比毛世良礼安波連止毛宇知比止利己多
わらひもせられあはれともうちひとりこた

末女己止尔毛我心止思日宇流己止那久深幾以
まめことにも我心と思ひうるこなく深きい

奈利介利奈与比可耳女之止美連者安未利奈
なりけりなよひかに女しとみれはあまりな

乃出入尔川希天毛於本屋介王多久之能人乃多、
の出入につけてもおほやけわたくしの人のた、

類、尔奈尔己止楚奈止安者徒可尔左志安不
る、になにこそなとあはつかにさしあふ

多利奈可覽者以止久知於之久太能毛之氣奈起
たりなか覽はいとくちおしくたのもしけなき

【帯木】 15右

【帯木】 15左

【帯木】 16右

【帯木】 16左

止可也奈越久類之可良无川祢者寸己之祖八く之具とかやなをくるしからんつねはすこしそはくしく

遠者与呂己比尔於毛飛寿己之遠久礼多留方をはよろこひにおもひすこしをくれたる方

川良奈止尔者比可久礼奴可之王良八尔侍之時女房つらなどにはひかくれぬかしわらはに侍し時女房

安者連春、美奴礼者屋可天尼尔奈利奴可之於毛比あはれす、みぬれはやかて尼になりぬかしおもひ

心川起奈幾人乃於利不之尔徒気天出者部寸留也宇心つきなき人のおりふしにつけて出はへするやう

安良无遠毛安奈可知丹毛止女久者部之宇之路屋あらんをもあなちにもとめくはへしうしろや

奈登乃物可多利与見之遠幾、天以止安者礼尔可奈之などの物かたりよみしをきゝていとあはれにかなし

堂徒保止者以登心寸女流也宇尔天与尔可部利三たつぽとはいと心すめるやうにてよにかへりみ

毛安利可之奈登久満奈起物以比毛左多女可年もありかしなとくまなき物いひもさためかね

春久能止気幾所多尔徒与久者宇八部乃奈佐気すくのとけき所たにつよくはうはへのなきけ

久心不可起事可那止涙遠左部奈武於止之侍之く心ふかき事かなと涙をさへなむおとし侍し

寸部久毛思部良須以天安奈可奈之閑久八多於本之すへくも思へらすいてあなかなしかくはたおほし

天以多久宇地奈気久以万八堂、志那尔毛与良之ていたくうちなけくいまはたゝしなにもよろし

者遠乃川可良毛天川希川部幾王左遠也衣武尔はをのつからもてつけつへきわさをやえむに

以万於毛不尔八以止可類く志久己止左良飛多累いまおもふにはいとかるくしくことさらにたる

奈利尔計留与奈止也宇耳安比志礼留人幾止なりにけるよなどやうにあひしれる人きと

閑多知遠者左良尔毛以者之以止久知於之久かたちをはさらにもいはしいとくちおしく

物者地之伝恨以不部幾事遠毛美志良奴左満丹物はちして恨いふへき事をもみしらぬさまに

己止奈利心佐之婦可、良無於止己遠、幾天美留女ことなり心さしふかゝらむおとこをゝきてみるめ

布良比飛多寸良尔宇之止毛思者那連奴於止己ふらひひたすらにうしとも思はなれぬおとこ

祢知希可末之幾於本衣多尔奈久八多、飛止部尔ねちけかましきおほえたになくはたゝひとへに

志乃飛天宇遍者川礼奈具三左本徒久利心飛しのひてうへはつれなくみさほつくり心ひ

乃末部尔川良起己止安利止毛人乃心遠三志良奴のまへにつらきことありとも人の心をみしらぬ

幾、徒気天涙於止世者徒可不人布類己多知きゝつけて涙おとせはつかふ人ふるこたち

物万女也可尔志徒可奈留心乃於毛武起奈良无与物まめやかにしつかなる心のおもむきならんよ

止川尔思安未留時者以者武可多奈久寸己起とつに思あまる時はいはむかたなくすこき

屋宇尔、気可久連天人遠万止八之心遠美武止やうにゝけかくれて人をまとはし心をみむと

奈止君乃御心者安波連奈利計累物遠安多良など君の御心はあはれなりける物をあた

類部遠曾川為乃多乃三所尔八思比遠久部可利るへをそつぬのたのみ所には思ひをくへかり

己乃者安波連奈留歌遠与見遠起志乃者類部幾このはあはれなる歌をよみをきしのはるへき

寸累保止尔奈可起世乃物思尔奈留以止安地幾するほとになかき世の物思になるいとあちき

御身遠奈止以不身川可良比多以可見遠可起左久御身をなといふみつからひたいかみをかきさく

氣累安未利乃由部与之心者世宇地曾部多良武けるあまりのゆへよし心はせうちそへたらむ

可多三遠止、女天布可幾山左登世者奈礼多累海かたみをとゝめてふかき山さと世はなれたる海

奈起事也心不可之也奈止本女多天良礼天なき事也心ふかしやなとほめたてられて

里天安部奈久心本楚氣礼者宇知比曾美奴可之りてあへなく心ほそければうちひそみぬかし

【帯木】 17右

【帯木】 17左

【帯木】 18右

【帯木】 18左

志乃不連止涙己本礼奴連者於利く己止尔衣祢无しのふれと涙こほれぬれはおりくことにえぬん

奈良女我毛人毛宇之路女多久心遠可礼志屋八ならめ我人もうしろめたく心をかれしやは

天安波連毛万左利奴部之於本久八我心毛美留人可良てあはれもまさりぬへしおほくは我心もみる人から

左良无止於本衣多礼止楚連左之毛安良之止毛可久さらんとおほえたれとそれさしもあらしともかく

之衣寸久屋之幾事毛於保可女累丹仏毛しえすくやしき事もおほかめるに仏も

又奈乃女尔宇川呂不可多安良无人遠恨天氣志幾又なのめにうつろふかたあらん人を恨てけしき

遠左末利毛寸部之安末利武氣尔宇地由留部見をさまりもすへしあまりむけにうちゆるへ見

毛太可部幾不之安良无遠能止屋可尔美志乃者无与もたかふへきふしあらんをのとかかにみしのはんよ

中く心幾多奈之止美給徒部之尔己利仁志女留中く心きたなしとみ給つへしにこりにしめる

者三楚武可無八多於古可末之可里奈武心者宇川はみそむかむはたおこかましかりなむ心はうつ

者奈知多流毛心也春久羅宇多起屋宇奈礼止はならたるも心やすくらうたきやうなれと

里外尔末寸事阿留末之閑利氣利止以飛天我り外にます事あるましかりけりといひて我

程与里毛奈満宇可比尔天者可部利天安之幾道尔毛程よりもなまうかひにてはかへりてあしき道にも

呂不可多阿利止毛見曾女之心佐之以止於之久ろふかたありとも見ぞめし心さしいとおしく

遠乃川可良可呂幾可多尔楚於本衣侍可之川奈可奴をのつかからきかたにそおほえ侍かしつなかぬ

以毛宇止乃姫君八古乃左多女尔可奈比給部利止於いもうとの姫君はこのさためにかなひ給へりとお

堂く与比奴部久楚於保遊留多衣奴寸久世安左たくよひぬへくそおほゆるたえぬすくせあさ

思八く左流可多乃与寸可尔思天毛安利奴部幾尔思はくさるかたのよすかに思てもありぬへきに

舟乃宇起多留多女之毛氣尔安也奈之左八侍良奴舟のうきたるためしもけにあやなしさは侍らぬ

毛部者君乃宇地祢不利天古止者末世給八奴遠左宇くもへは君のうちねふりてことはませ給はぬをさうく

可良天尼尔毛奈左天尋止利多良武毛屋可天曾乃からて尼にもなさて尋とりたらむもやかてその

左也宇奈良無多知呂幾尔多部奴部幾王左奈利さやうならむたちろきにたへぬへきわさなり

可登以部者中将宇奈川久左之安多利伝於可之止毛かといへは中将うなつくさしあたりておかしとも

志久心屋末之止於毛不武万乃可三物左多女能者可世尔しく心やましとおもふむまのかみ物さためのはかせに

思出宇良女之幾不之安良左良无也安之久毛与久思出うらめしきふしあらざらんやあしくもよく

寸部天与呂徒乃己止奈多良可尔衣无春部幾己止すへてよろつのことなたらかにえんすへきこと

安波連止毛心尔以良无人能堂乃毛之希奈起宇あはれとも心にいらん人のたのもしけなきう

奈利天飛く良幾為多利中将八此己止八利遠幾くなりてひくらきぬたり中将は此ことはりをきく

毛安比楚飛天止安良无於利毛可く覽幾佐三遠もあひそひてとあらんおりもかく覽きさみを

遠者三之連累左満尔本乃女可之宇良武部可良无をはみしれるさまにほのめかしうらむへからん

堂可比安良无己曾大事奈留部希連我心安也未知たかひあらんこそ大事なるへけれ我心あやまち

者天无止心尔人伝安部志良比為給部里与呂徒乃はてんと心に入てあへしらひぬ給へりよろつの

毛見春久之多良無中己曾契婦可久哀も見すくしたらむ中こそ契ふかく哀

婦之遠毛尔久可良須可寸女奈左者楚礼尔川希ふしをもにくからすかすめなさばそれにつけ

奈久天美寸久左波左之奈越之天毛奈止可見なくてみすくさはさしなをしてもなとか見

事尔与曾部天於本世木乃美地乃多久三能与呂事によそへておほせ木のみちのたくみのよろ

【帯木】 19 右

徒乃物遠心尔未可世天川利以多寸毛里无之
つの物を心にまかせてつくりいたすもりんし

乃毛天安楚飛毛能、曾乃毛乃止安登毛左多末良
のもてあそひものゝそのものとあともさたまら

奴者曾八徒起左礼者三多類毛氣尔可宇毛志川
ぬはそはつきされはみたるもけにかうもしつ

遍可利氣利止時耳川希津、左満遠可部天以末女
へかりけりと時につけつゝさまをかへていまめ

可之幾仁女宇川利伝於可之幾毛安利大事止之天
かしきにめうつりておかしきもあり大事として

万己万止尔宇流八之幾人乃天宇止能可左利止寸留
まことにうるはしき人のてうのかさりとする

左太末礼留屋宇安留物遠奈無奈久志出留事
さたまれるやうある物をなむなくし出る事

奈越万己止乃物乃上手者左満古止尔美衣王可
なをまことの物の上手はさまことにみえわか

連侍留又総所尔志也宇寸於本可連止春見
れ侍る又総所にしやうすおほかれとすみ

【帯木】 19 左

可起尔衣良八礼天川幾く、尔左良尔於止利満
かきにえらはれてつきく、にさらにおとりま

左留氣知女布止之毛美衣王可礼寿閑、連止人
さるけちめふとしもみえわかれますか、れと人

乃見於与八奴本宇良以乃山安良海乃以可連累
の見およはぬほうらいの山あら海のいかれる

魚乃春可多閑良国乃者氣之幾介多毛能、可多
魚のすかたから国のはけしきけたものゝかた

知女尔三衣奴於尔乃可本奈登乃於止呂く、之久
ちめにみえぬおにのかほなどのおとろくしく

徒久利多流物者心尔未可世天飛止幾八目於止呂
つくりたる物は心にまかせてひときは目おとろ

可之天志知尔八仁左良女登左天安利奴部之与乃
かしてしちにはにさらめとさてありぬへしよの

川祢乃山乃多、春末井水乃奈可礼女尔知可起
つねの山のたゝすまぬ水のなかれめにちかき

人乃家為安利左満氣尔止美衣奈川可之久也八良
人の家ぬありさまけにとみえなつかしくやはら

【帯木】 20 右

飛多累可多奈止遠志徒可尔可起末世天寸久与可良奴
ひたるかたなどをしつかにかきませてすくよからぬ

山乃氣之幾己不可久与者那連天多、見奈之
山のけしきこふかくよはなれてたゝ見なし

氣知可起万可幾能中遠者楚能心之良以遠幾天
けちかきまかきの中をはその心しらいをきて

奈止遠奈武上手八以止以幾本比古止丹（王）尔留物者
などをなむ上手はいといきほひことに（わ）にる物は

於与者奴所於本可女累手遠可起多留尔毛婦可起
およはぬ所おほかめる手をかきたるにもふかき

己止者奈久天古、可之己乃天无奈可尔波之里可幾
ことはなくてこゝかしこのてんなかにはしりかき

楚古者可止奈久氣之幾者女累八字地美留尔加
そこはかとなくけしきはめるはうちみるにか

止く志久氣之幾堂知多礼止奈越万己止乃
とくしくけしきたれとなをまことの

寸知遠己未也可尔可起衣多流八字八部豊不天幾衣
すちをこまやかにかきえたるはうはへのふてきえ

【帯木】 20 左

天見遊連登以万一多比止利奈良部天美連者奈遠
て見ゆれといま一たひとりならへてみればなを

志知丹奈武与里氣累者可奈起己止太尔可久己
しちになむよりけるはかなきことたにかくこ

楚侍連末之天人乃心乃止起尔安多利天介之
そ侍れまして人の心のときにあたりてけし

幾者女良無美留女能奈左氣遠者衣堂乃武万
きはめらむるめのなさけをはえたのむま

志久思不多末部天侍留曾乃波之女能己止春起く
しく思ふたまへて侍るそのはしめのことすきく

之久止毛申侍良无止天知可久為与礼者君毛女左
しくとも申侍らんとてちかくぬよれば君もめさ

末之給中将以三之久志无志天徒良川惠遠川幾
まし給中将いみしくしんしてつらつゑをつき

天武可比為多末部利法乃師乃世能古止八利止起
てむかひぬたまへり法の師の世のことほるとき

幾可世无所乃心地寸留毛可川者於可之氣礼止可、流
きかせん所の心地するもかつはおかしけれとかゝる

【帶木】 21右

【帶木】 21左

【帶木】 22右

【帶木】 22左

徒為天丹八遠乃く武川己止毛衣志乃比止、女寸奈武
つゐてにはをのくむつこともえしのひと、めすなむ

奈良奴身越美毛八奈多天奈止可久之毛於毛不良无止
ならぬ身をみもはなてなとかくしもおもふらんと

見尔久起可多地遠毛己乃尔尔三也宇止末連无止八利
みにくきかたちをもこの人にみやうとまれんとはり

衣奴部幾氣之幾奈良八可者加利我尔志多可不心奈良
えぬへきけしきならははかり我にしたかふ心なら

安利氣累者也宇末多下臈尔侍之時安者礼止思
ありけるはやうまた下臈に侍し時あはれと思

心久類之起於利く毛侍天志祢无尔心於左女良
心くるしきおりくも侍てしねんに心おさめら

奈久於毛飛徒久呂比宇止起人丹美衣八於毛天不世
なくおもひつころひうとき人にみえはおもてふせ

者思己利奈武止思給天古止左良尔奈佐氣奈久
は思こりなむと思給てことさらになさけなく

人侍幾幾古衣左世川留也尔閑多知奈止以止末
人侍ききこえさせつるやうにかたちなといとま

流、屋尔奈武侍之此女乃安類也宇毛登与里
る、やうになむ侍し此女のあるやうもとより

尔也思八礼无止者、閑利波知天見左本尔毛天徒
にや思はれんとは、かりはちてみさほにもてつ

川礼奈起左滿遠美世天連以乃者良多地衣无寸留
つれなきさまをみせてれいのはらたちえんする

本尔毛侍良左里之可八王可起保止乃寸起心知尔八
ほにも侍らさりしかはわかきほとのですき心には

於毛飛以多良左里氣累己止尔毛以可天古乃人農
おもひいたらさりけることにもいかてこの人の

氣天美奈類、末、丹心毛氣之宇八安良寸侍之可止
けてみなる、ま、に心もけしうはあらず侍しかと

丹閑久於楚末之久八以三之起契不可久止毛太衣天
にかくおそましくはいみしき契ふかくともたえて

古乃人遠止末利尔止毛思止、女侍良寿与類部止八
この人をとまりにとと思と、め侍らすよるへとは

多女尔八止奈幾天遠以堂之遠久連多累寸知能
ためにはとなきてをいたしをくれたるすちの

堂、己能尔久幾可多飛止川奈無心於左女寸侍之
た、このにくきかたひとつなむ心おさめす侍し

又見之可起礼止於毛者、加久和利奈起物宇多可比
又見しかきりとおもは、かくわりなき物うたかひ

於毛比奈可良左宇く志久天止可久滿幾礼侍之遠
おもひなからさうくしくてとかくまきれ侍しを

心遠毛奈越久知於志久八美衣之止思日者氣三川、
心をもなをくちおしくはみえしと思ひはけみつ、

曾乃可三思侍之也宇可宇安奈可知尔志多可比於知
そのかみ思侍しやうかうあなかにしたかひおち

八勢与由久左起奈可久美衣无止思八、川良幾己登
はせよゆくさきなくみえんと思は、つらきこと

毛乃衣无之遠以多久志侍志可八心川起奈久以登
ものえんしをいたくし侍しかは心つきなくいと

止尔可久丹川氣天物万女也可尔宇之呂三徒遊尔天
とにかくにつけて物まめやかにうしろみつゆにて

多流人奈女利以可天己留者可利能王佐之天於止
たる人なめりいかてこるはかりのわさしておと

安利止毛祢无志天奈乃女尔於毛飛奈利伝可、流
ありともねんしてなめにおもひなりてかゝる

可、良天於以良可奈良末之可八止思徒、安末利以止
かゝらておいらかならましかはと思つ、あまりいと

毛心尔太可不已止八奈久毛可那止思部利之保止尔春、
も心にたかふことはなくもかなと思へりしほとにす、

志天古乃可多毛寿古之与呂志久毛奈利左可奈幾毛
してこのかたもすこしよろしくもなりさかなきも

心多尔宇世奈者以止安者礼止奈武思不部幾人奈三
心たにうせなはいとあはれとなむ思ふへき人なみ

遊類之奈久宇多可比侍之毛宇留左久天可久加寸
ゆるしなくうたかひ侍しもうるさくてかくかす

女流可多止思之可登止可久丹奈比幾天奈与比由起
めるかたと思しかととかくになひきてなよひゆき

屋女武止思天滿古止尔宇之奈止義思天多
やめむと思てまことにうしなとも思てた

く尔毛奈利寿己之於止奈比无丹楚部天末多奈良
くにもなりすこしおとなひんにそへてまたなら

【帯木】 23右

布人奈久安類部幾屋宇奈止可之已久於之部多川留
ふ人なくあるへきやうなどかしこくおしへたつる

可奈登思給天我多氣久以比曾之侍尔寸己之
かなと思給て我たけくいひそし侍にすこし

宇地王良比天与呂徒尔三多奈久物氣奈起程
うちわらひてよろつにみたてなく物けなき程

遠見春久之天人可寸奈留世毛屋止待可多八以止能
を見すくして人かすなる世もやと待かたはいとの

止可尔思奈左礼天心屋末之久毛安良寸川良起心
とかに思なされて心やましくもあらすつらき心

遠志乃飛天思奈越良无於利遠美徒氣无止止之
をしのひて思なをらんおりをみつけんとし

月遠可左祢无安比奈堂乃三八以止久類之久
月をかさねんあひなたのみはいとくるしく

奈武安類部氣礼者可多見尔楚武幾奴部幾
なむあるへければかたみにそむきぬへき

幾佐三尔奈無安流止祢多氣仁以不尔者良多、
きさみになむあるとねたけにいふにはらたゝ

【帯木】 23左

志久成天尔久希奈留己止、毛越以比者遺末之
しく成てにくけなることゝもをいひはけまし

侍尔女毛衣於左女奴春地尔天於与比日止川遠
侍に女もえおさめぬすちにておよひひとつを

日起与勢天久以天侍之遠於止呂く之久可己
ひきよせてくいて侍しをおとろくしくかこ

知天可、流幾寸左部徒起奴礼者以与く末之
ちてかゝるきささへつきぬれはいよくまし

良比遠春部幾尔毛安良寸者川可之女給女留徒
らひをすへきにもあらすはつかしめ給めつ

可左位以止、志久奈尔、川氣天可八人女可武世遠曾
かさ位いとしくなにとつてかは人めかむ世をそ

武起奴部幾三奈女利奈登以比於止之天左良波
むきぬへきみなめりなといひおとしてさらは

氣婦己曾八可起利奈女連登己乃於与比遠閑、
けふこそはかきりなめれとこのおよひをかゝ

女天末可天奴
めてまてぬ

【帯木】 24右

手遠折天逢三之己止越可楚不連者古礼飛
手を折て逢みしことをかさふればこれひ

止川也八君可宇起不之衣宇良見之奈止以比侍
とつやは君かうきふしえうらみしなといひ侍

連者左寸可尔宇地奈幾天
れはさすかにうちなきて

宇起不之遠心比止川尔加曾部幾天己也君可天
うきふしを心ひとつにかそへきてこや君かて

遠王可類部幾於利奈登以比之路飛侍之可止
をわかるへきおりなといひしろひ侍しかと

滿己止尔波可衣類部幾己止、毛思給部寸奈可良
まことにはかはるへきことゝも思給へすなから

日己呂布留末天世宇曾己毛徒可八左寸安久可礼
日ころふるまでせうそこもつかはさすあくかれ

末可里安利尔里无時乃末川利乃天宇可久丹
まかりありくにりん時のまつりのてうかくに

与不氣天以見之宇美楚礼不留与古連可礼末可利
よふけていみしうみそれふるよこれかれまかり

【帯木】 24左

安可類、所尔天思女久良世者奈越家知止思
あかる、所にて思めくらせはなを家ちと思

八无可多八又奈可利氣利宇地王多利能多飛祢毛
はんかたは又なかりけりうちわたりのたひねも

春左末之可類部久介之起者女流安多利八曾、
すさましかるへくけしきはめるあたりはそゝ

路左武久也止思不給部良礼之可八以可、於毛部累止
ろさむくやと思ふ給へられしかはいかゝおもへると

氣之幾毛見可天良雪遠宇知者良比徒、万
けしきも見から雪をうちはらひつゝま

可天、奈万人王呂久徒女久八類連登左利止毛
かてゝなま人わろくつめくはるれとざりと

古与比日己呂能宇良見八止氣奈無止思給部志尔
こよひ日ころのうらみはとけなむと思給へしに

火本乃可尔可部丹楚武希奈衣多留幾奴止毛乃
火ほのかにかへにそむけなえたるきぬともの

安川己衣多留於保以奈留己尔宇地可遭天日起
あつこえたるおほいなるこにうちかけてひき

【帶木】 25 右

安久部幾物乃可多飛良奈止宇知安希天古与飛
あくへき物のかたひらなとうちあけてこよひ

【帶木】 25 左

奈礼止心屋末之幾末、尔思侍之丹幾留部幾
なれと心やましきまゝに思侍しにきるへき

【帶木】 26 右

以比之遠左礼止毛衣於毛飛者奈礼之止思給部志
いひしをさりとともえおもひはなれしと思給へし

【帶木】 26 左

尔毛於止留万之久楚乃可多毛久之伝宇留左久
にもおとるましくそのかたもくしてうるさく

者可利屋止待氣留左滿奈利左礼者と登心於
はかりやと待けるさまなりされはよと心お

物川祢与里毛心止、女多留色安比之左万以止
物つねよりも心とゝめたる色あひしさいと

可八志波之古良左无乃心尔天志可安良太女无止毛
かはしはしこらさんの心にてしかあらためんとも

奈無侍之止天以登安者礼止思出多利中將
なむ侍しとていとあはれと思出たり中將

己利寸留丹左宇之三八奈之左類部幾女房止毛
こりするにさうしみはなしさるへき女房とも

安良万本之久天左寸可尔我三寸天、無乃知遠
あらまほしくてさすがに我みすてゝむのちを

以者寸以多久徒奈比幾天三世之安比多尔以止
いはすいたくつなひきてみせしあひたにいと

楚能七夕乃多知奴不可多遠乃止女天奈可起契
その七夕のたちぬふかたをのとめてなかき契

者可利止滿利天於也乃家尔古乃与左利奈武
はかりとまりておやの家にこのよさりなむ

左部奈武思屋利宇之呂三多里之左礼止毛太衣天
さへなむ思やりうしろみたりしさとともたえて

以多久於毛飛奈氣幾天者可奈久奈利侍尔之可八
いたくおもひなけきてはなくなり侍にしかは

尔曾安衣末之氣丹曾乃立田姫乃尔之幾尔
にぞあえましけにその立田姫のにしきに

和多利奴留止己多部侍利衣无奈留歌毛与末寸
わたりぬるところへ侍りえんなる歌もよます

思者奈川也宇八安良之登思給天止可久以飛侍
思はなつやうはあらしと思給てとかくいひ侍

多八不礼尔久、奈武於保衣侍之比止部尔宇地
たはふれにくゝなむおほえ侍しひとへにうち

八又志久物安良之波可奈起者那紅葉止以婦毛
は又しく物あらしはかなきはな紅葉といふも

氣之幾者女累世宇曾己毛世天以止飛多也己
けしきはめるせうそこもせていとひたやく

之遠楚武幾毛世寸多川祢末止八左无止毛可久
しをそむきもせすたつねまとはさんともかく

堂乃三多良无可多八左者可利尔天安利奴部久
たのみたらんかたはさはかりにてありぬへく

於利不之乃色安比川幾奈久波可く志可良奴者川
おりふしの色あひつきなくはかくしからぬはつ

毛里尔奈左希奈可利志可者安部奈起心知志天
もりになさけなかりしかはあへなき心ちして

連志乃比須可、也可之閑良寸以良部徒、多、安利之
れしのひすかゝやかしからすいらへつゝたゝありし

奈無思給部出良類、者可那氣安多己止遠毛滿
なむ思給へ出らるゝはかなきあたことをもま

遊乃者部奈具幾衣奴留王佐奈利左安類尔与利
ゆのはへなくきえぬるわさなりさあるにより

左可奈久遊留志奈可利之毛我遠宇止見祢止思
さかなくゆるしなかりしも我をうとみねと思

心奈可良者衣奈無美寸久寿末之幾安良堂
心なからはえなむみすくすましきあらた

己止乃大事遠毛以比安八世多留尔可比奈可良寸
ことの大事をいひあはせたるにかひなからす

可多起世曾止八左多女可祢多累曾也止以比者屋之
かたき世そとはさためかねたるそやといひはやし

可多能心也安利介无止左之毛美給部左利之己止
かたの心やありけんとしもみ給へさりしこと

女天能止可尔於毛飛奈良八奈武安比美留部幾奈止
めてのとかにおもひならはなむあひみるへきなど

多川多姫止以者无尔毛川起奈可良寸七夕乃手
たつた姫といはんにもつきなからす七夕の手

給左天末多於奈之比末可利可与比之所八人毛
給さてまたおなし比まかりかよひし所は人も

【帯木】 27右

多地万左利心者世万古止尔由部安利止美衣奴部
たちまさり心はせまことにゆへありとみえぬへ

久宇知与見者之里可起可比、久徒万遠止三奈
くうちよみはしりかきかひ、くつまをとみな

多登く之可良寸三幾、王多利侍幾美留女毛古止
たとくしからすみき、わたり侍きみるめもこと

毛奈久侍之可者古乃左可奈物遠宇地止氣多留方
もなく侍しかはこのさかな物をうちとけたる方

尔天時々可久呂部三侍之保止八古与奈久心止末利
にて時々かくるへみ侍しとはこよなく心とまり

侍幾己乃人宇世天乃知以可、八世武安波連奈可良毛
侍きこの人うせてのちいか、はせむあはれなからも

春起奴留者加比奈久天志八く満可利奈類、尔八
すきぬるはかひなくてはくまかりなる、には

寿古之末者由久衣无丹己能末之幾古止八女尔
すこしまはゆくえんにこのましきことはめに

徒可奴所安累尔宇知堂乃武部久毛美衣寸可連
つかぬ所あるにうちたのむへくもみえすかれ

【帯木】 27左

く尔乃三美世侍本止尔志乃飛天心可八世留人曾
くののみみせ侍ほとにしのひて心かはせる人そ

安利氣良之神奈月乃己呂本比月於毛之呂
ありけらし神奈月のころほひ月おもしろ

閑里之夜内与利満可天侍尔安流宇部人幾安飛
かりし夜内よりまかて侍にあるうへ人きあひ

天此車に安比乃利天侍連八大納言能家仁万
て此車にあひのりて侍れは大納言の家にま

可里止末良武止春類尔己乃人乃以不也宇己与比
かりとまらむとするにこの人のいふやうこよひ

人侍良无屋止奈無安也志久心久類之幾止天此
人侍らんやとなむあやししくくるしきとて此

女能家八多与起奴三地奈利氣礼者安連多流
女の家はたよきぬみちなりければあれたる

久徒連与利池乃水可希美衣天月多尔屋止留寸
くつれより池の水かけみえて月たにやとるす

三可越寸幾无毛左寸可尔天於利侍奴可之毛止与里
みかをすきんもさすかにており侍ぬかしもとより

【帯木】 28右

左累心遠可八世類尔也阿利氣無己乃男以多久
さる心をかはせるにやありけむこの男いたく

楚、路幾天門知可起羅宇乃寸能己多川物尔志利
そ、ろきて門ちかきらうのすのこたつ物にしり

可氣天止波可利月遠美留幾久以止於毛之呂久宇
かけてとはかり月をみるきくいとおもしろくう

徒呂比王多利天風尔幾本部累毛三知乃三多
つろひわたりて風にきほへるもみちのみた

連奈止安者礼止氣尔美衣堂利布止己呂奈利
れなとあはれとけにみえたりふところなり

氣留布恵止利以天、吹奈良之影毛与之奈登
けるふゑとりいて、吹ならし影もよしなど

徒、志利宇多婦本止尔与久奈留王己无遠志良部止、
つ、しりうたふほとによくなるわこんをしらへと、

乃部多利希留宇類八之久可起安八世多里之本止遣
のへたりけるうるはしくかきあはせたりしほとけ

之宇八安良寸可之律濃志良部八女乃物屋八良可尔
しうはあらずかし律のしらへは女の物やはらかに

【帯木】 28左

可起奈良之天春乃宇知与利幾己衣多累毛以
かきならしてすのうちよりきこえたるもい

末女幾多留物乃声奈礼者幾与久寿女留月
まめきたる物の声なればきよくする月

尔於利徒起奈可良寸於止己以多久女天、寸能毛止
におりつきなからすおとこいたくめて、すのもと

丹安遊三幾天仁者乃毛三知己曾不三王氣多留
にあゆみきてにはのもみちこそふみわたる

安登毛奈氣礼奈止祢多末寸菊遠折天
あともなければとねたます菊を折て

己止乃祢毛月毛衣奈良奴屋止奈可良川連奈起
ことのねも月もえならぬやとなからつれなき

人遠飛幾也止女氣留王呂可女利奈止以比天以
人をひきやとめけるわるかめりなといひてい

万一声幾、者也寸部幾人乃安留時手奈能己以給
ま一声き、はやすへき人のある時手なのこい給

曾奈止以多久安左礼可久連者女声以多宇徒久呂比天
そなといたくあされかくれば女声いたうつくろひて

【帶木】 29 右

【帶木】 29 左

【帶木】 30 右

【帶木】 30 左

木可良志尔吹安八寸女留笛乃祢遠日起止、
木からしに吹あはする笛のねをひきと、

左之寸久飛多利止心遠可連帝曾乃与能己止仁
さしくひたりと心をかれてそのよのことに

止毛七止勢安未利可本止尔於本之志利侍奈无奈尔
とも七とせあまりかほとにおほししり侍なんなに

徒部可利之氣八比奈利之可八奈可良不部幾物止之毛
つへかりしけはひなりしかはなからふへき物としも

武部幾己止乃波楚奈起止奈満女起可八寸仁丹久、
むへきことのはそなきとなまめきかはすににく、

己止川希天己曾満可里堂衣丹之可古濃不多川能己止
ことつけてこそまかりたえにしかこのふたつのこと

可之可以也之幾以左女尔天寸起多八女良无女尔八
かしはいやしきいさめにてすきたはめらん女には

於毛比太末部左里之可登奈礼由久末、尔安八礼止
おもひたまへさりしかとなれゆくまゝにあはれと

奈留越毛志良天末多左宇能己止越者无之木天宇
なるをもしらてまたさうのことをはんしきてう

遠思給部安八寸留尔王可起時乃心尔多尔奈越
を思給へあはするにわかし時の心にたになを

心遠可世太末部安屋未知天三无人乃可多久那奈累
心をかせたまへあやまちてみんなのかたくなる

於本衣之可者堂恵く和寸礼奴物尔思給部之遠
おほえしかはたえくわすれぬ物に思給へしを

尔志良部天以満女可之久可比日起多留徒万遠止
にしらへていまめかしくかひきたるつまをと

左也宇耳毛天出多累事八以止安屋志久多能毛之
さやうにもて出たる事はいとあやくたのものし

名遠毛多天徒部幾物也止以末之武中将連以乃
名をもたてつへき物也といましむ中将れいの

左者可利仁奈連者宇地多能女累氣之幾毛美衣幾
さはかりになれはうちのめるけしきもみえき

可止奈起尔八安良祢止末者由起心知奈武志侍
かとなきにはあらねとまはゆき心ちなむし侍

氣奈久於本衣侍幾以万与利乃地八末之天左乃三
けなくおほえ侍きいまよりのちはましてさのみ

宇奈川久君寿己之可多恵三天左留古止、八於保
うなつく君すこしかたゑみてさること、はおほ

多乃武丹川氣天八字良女之止於毛不已止毛安良无止
たのむにつけてはうらめしとおもふこともあらんと

之堂、時く宇地可多良婦宮徒可部人奈止能安久
した、時くうちかたらふ宮つかへ人などのあく

奈無思給部良類部幾御心乃末、尔於良八於知奴
なむ思給へらるへき御心のまゝにおらはおちぬ

春部可女利以徒可多尔川希天毛人王呂久者之太
すへかめりいつかたにつけても人わろくはした

心奈可良於保遊留於利く毛侍之遠見之良奴也宇
心なからおほゆるおりくも侍しを見しらぬやう

末天左礼者三春起多留八左天毛美留閑幾利八
までされはみすきたるはさてもみるかきりは

部幾者起乃川遊日呂八、幾衣奈武止美由留太末
へきはきのつゆひろは、きえなむとみゆるたま

奈可利氣留美物可多利可奈止天宇地王良比於者
なかりけるみ物かたりかなとてうちわらひおは

尔天飛佐之幾止多衣遠毛閑宇多末左可奈留人
にてひさしきとたえをもかうたまさかなる人

於可之久毛安利奴部之時く尔天毛左累所尔天主
おかしくもありぬへし時くにてもさる所にてわ

佐、乃宇遍能安良連奈止乃衣无尔安部可奈留寸起
さ、のうへのあらねなどのえんにあへかなるすき

左宇寸中将奈尔可之八志礼毛能、物可多利遠世武止
さうす中将なにかしはしれもの、物かたりをせむと

止毛於毛比多良寸堂、朝夕尔毛天川希太良无
ともおもひたらずた、朝夕にもてつけたらん

春礼奴与寸可止思給部武丹八多乃毛之氣奈久
すれぬよすかと思給へむにはたのもしけなく

く志左乃三己楚於可志久於保左類良女以万左利
くしさのみこそおかしくおほさるらめいまさり

天以止之乃飛天見楚女多里之人乃左天毛三
ていとしのひて見そめたりし人のさてもみ

安利左満尔美衣天心久類之可利之可八多乃女王多留
ありさまにみえて心くるしかりしかはたのめわたる

【帯木】 31右

【帯木】 31左

【帯木】 32右

【帯木】 32左

己止奈止毛安利幾加之於屋毛奈久以止心本曾希
ことなともありきかしおやもなくいと心ほぞけ

本曾可利氣礼者遠左奈幾毛乃奈止毛安里之尔
ほそかりければをさなきものなともありしに

左起末之流者那者以徒連止王可年止毛猶止古
さきましるはなはいつれとわかねとも猶とこ

久天又止多衣遠起侍之保止尔跡毛奈久己曾可幾希
くて又とたえをき侍しほとに跡もなくこそかきけ

尔天左良波己乃人己曾八登古止尔不礼天於毛
にてさらはこの人こそはとことにふれておも

於毛飛王川良比帝奈天之古乃花遠折天遠
おもひわつらひてなてしこの花を折てを

夏尔之久物楚奈起屋末止奈天之己遠八左之遠
夏にしく物ぞなきやまとなてしこをはさしを

知天宇勢尔之可末多世尔安良八者可奈起世尔曾左
ちてうせにしかまた世にあらははかなき世にそさ

遍留左万毛良宇堂氣奈利幾可宇乃止希起
へるさまもらうたけなりきかうのとけき

己世多利之止天涙久三多利左天楚乃不三能己止葉
こせたりしとて涙くみたりさてそのふみのこと葉

幾天万川知利遠多尔奈登於也乃心遠止留
きてまつちりをたになとおやの心をとる

寿良不良无安者礼止於毛飛之保止丹王川良八之介尔
すらふらんあはれとおもひしほとにわつらはしけに

尔遠多志久帝飛左之久満可良左里之比己能三
にをたしくてひさしくまからさりし比このみ

八登止比太末部者以左也己止奈留己止毛奈可利幾也
はととひたまへはいさやことなることもなかりきや

宇地八良婦袖毛川遊介起止己奈川尔安良之不幾
うちはらふ袖もつゆけきとこなつにあらしふき

思末止八寸氣之幾見衣末之可八閑久毛安久可良
思まとはすけしき見えましかはかくもあくから

多末不累王多利与利奈左氣奈久宇多天安流
たまふるわたりよりなさけなくうたてある

山可徒乃可幾本安留止毛於利く尔安者礼八可
山かつのかきほあるともおりくにあはれはか

曾不秋毛幾仁介利止者可奈氣尔以比奈之天末女
そふ秋もきにけりとはかなけにいひなしてまめ

左、良末之古与奈起止多衣遠可寸左累物尔之奈之
さゝらましこよなきとたえをかすさる物にしなし

己止越奈無左留太与利安利天可寸女以八世多利介留
ことをなむさるたよりありてかすめいはせたりける

氣与奈天志古乃川遊於毛比出之末、仁万可利
けよなてしこのつゆおもひ出しまゝにまかり

万女志久宇良見多留左満毛三衣寿涙遠毛良之
まめしくうらみたるさまもみえず涙をもらし

天奈可久美留屋宇毛侍奈末之可乃奈天之己能良宇
てなかくみるやうも侍なましかのなてしこのらう

乃知尔己曾幾、侍之可左累宇起己止也安良无止毛
のちにこそき、侍しかさるうきことやあらんとも

堂利之可八連以乃宇良毛奈起物可良以止毛乃於毛飛
たりしかはれいのうらもなき物からいとものおもひ

於止之天毛以止者徒可之久徒、末之氣尔末起
おとしてもいとはつかしくつゝましけにまき

多久侍之可八以可天多川年无止思給布留遠以満丹
たく侍しかはいかてたつねんと思給ふるをいまに

志良寸心尔八王寸連須奈可良世宇楚己奈止毛
しらす心にはわすれすなからせうそなとも

可本尔天安礼多留家乃露之氣幾越奈可女天虫
かほにてあれたる家の露しけきをなかめて虫

良八之加久志天川良幾遠毛思志利介利止美衣无
らはしかくしてつらきをも思しりけりとみえん

衣己曾幾、川氣侍良称古連己曾乃給部留者可奈起
えこそき、つけ侍らねこれこそ給へるはかなき

世天飛左之久侍之丹武氣尔思之本連天心
せてひさしく侍しにむけに思しほれて心

乃称尔幾本部累介之幾昔物語女起天於本衣侍之
のねにきほへるけしき昔物語めきておぼえ侍し

者王利奈久具類之幾物止思日多利之可八心也寸
はわりなくくるしき物と思ひたりしかは心やす

堂女之奈女礼川連奈久帝徒良之登於毛比希留
ためしなめれつれなくてつらしとおもひける

【帯木】 33 右

【帯木】 33 左

【帯木】 34 右

【帯木】 34 左

遠毛志良天安者礼多衣左利之毛屋久奈起可多思
をもしらてあはれたえさりしもやくなきかた思

於毛可留部之己乃毛止奈起毛宇多可比楚不部氣連
おもかるへしこの心もとなきもつたかひそふへけれ

之所侍良无止以部止頭乃君万女也可尔遠曾志登
し所侍らんといへと頭の君まめやかにをそしと

の武寸女止毛於本可利止幾、給天波可奈起徒為天丹
のむすめともおほかりとき、給てはかなきつゝめてに

奈利介利以万屋宇く王寸連由久幾ハル可礼八多
なりけりいまやうくわすれゆくきはにけれはた

者以徒連止徒為尔思日左多女寸奈利奴留己曾世中
はいつれとつゝに思ひさためすなりぬるこそ世中

世女給部者奈丹己止遠可止利申左武止於毛比女久良
せめ給へはなにことをかとり申さむとおもひめくら

以比与利天侍之遠於也幾、川氣天左可月毛天出天
いひよりて侍しをおやき、つけてさか月もて出て

衣之毛於毛飛者奈連須於利く人屋利奈良奴
えしもおもひはなれすおりく人やりならぬ

也堂、可久曾止里く丹久良部久類之可留部幾己乃
やた、かくそとりくにくらへくるしかるへきこの

寸尔末多文章乃生尔侍之時可之己幾女乃太女之
すにまた文章の生に侍し時かしこき女のためし

我不多川乃美知宇多不遠幾氣止奈無幾己衣己知
我ふたつのみちうたふをきけとなむきこえち

武年己可類、夕毛安良无止於本衣侍己連奈无衣
むねこかる、夕もあらんとおほえ侍これなんえ

左満く能与起閑幾利遠止利久之奈武寸部幾久
さまくのよきかきりをとりくしなむすへきく

遠奈无見給部之可濃馬頭乃申給部累屋宇耳於
をなん見給へしかの馬頭の申給へるやうにお

侍之可止遠左く宇地止氣天毛満可良寸可乃於也乃心
侍しかとをさくうちとけてもまからすかのおやの心

多毛川末之久堂乃毛之希奈起可多奈利氣留左
たもつましくたのもしけなきかたなりけるさ

左八比末世奴人八以徒尔可八安良无吉祥天女遠
さはひませぬ人はいづくにかはあらん吉祥天女を

本也希己止遠毛以比安八世王多久之左満乃与尔寿
ほやけことをもいひあはせわたくしさまのよにす

遠者、可利天左寸可尔加、川良比侍之保止尔以止安
をは、かりてさすかにか、つらひ侍しほとにいとあ

連者可乃左可那毛乃毛思以天安累可多八王寸連
れはかのさかなものも思いてあるかたはわすれ

思可氣无止春礼者本宇希川起久寸之可良无己曾又
思かけんとすればはうけつきくすしからんこそ又

末不部幾心遠幾天遠思日女久良左武可多毛以多利布
まふへき心をきてを思ひめくらさむかたもいたりふ

者礼丹於毛飛宇之呂三祢佐女乃可多良比尔毛身
はれにおもひうしろみねさめのかたらひにも身

可多計連登左之安多利伝三无尔八王川良八之久
かたけれとさしあたりてみんにはわつらはしく

王比之可利奴部氣連止天美奈王良比奴式部可所尔曾
わひしかりぬへけれとてみなわらひぬ式部か所にそ

可久左衣能幾八奈万く乃者可勢者徒可之久寸部帝
かくさえのきはなまくのはかせはつかしくすへて

乃左衣徒幾於本也氣尔川可不末川留部幾三知く志起
のさえつきおほやけにつかふまつるへきみちくしき

与久世寸八安幾多起己止毛安利奈无屋古止乃年
よくせすはあきたきこともありなんやことのね

氣之幾安累己止八安良无春己之徒、可多利申世登
けしきあることはあらんすこしつ、かたり申せと

久知安可寸部久奈武侍良左利之楚礼者安留者可世
くちあかすへくなむ侍らさりしそれはあるはかせ

古止遠、志部天以止幾与氣丹世宇曾己不三尔毛可无
ことを、しへていときよけにせうそふみにもかん

乃春、女利氣無可止く之左毛春起多留徒三
のす、めりけむかとくしさをすきたるつみ

世女良流志毛可下乃中尔八奈天宇己止可幾己之女
せめらるしもか下の中になてうことかきこしめ

乃毛止尔学問奈止之侍止天末可利通之本止尔安留之
のもとに学問なとし侍とてまかり通しほとにあるし

奈止以不毛乃可起末世寸武部く志久以比満八之
なといふものかきませすむへくししいひまはし

【帯木】 35 右

侍爾遠乃徒可良衣末可利多衣天曾乃物遠師止之天
侍にをのつからえまかりたえてその物を師として

奈武王川可奈留己之遠連布見徒久累己止奈止
なむわつかなるこしをれふみつくることなと

奈良比侍之可八以末尔楚乃於无八王寸連侍良称止
ならひ侍しかはいまにそのおんはわすれ侍らねと

奈川可之幾左以之止宇地多乃末无丹無才能人奈満
なつかしきさいしとうちたのまんは無才の人なま

王呂奈良无布留末并奈止美衣无丹者川可之久奈无
わるならんふるまふなとみえんにはつかしくなん

三衣侍之乃以天君多知乃御多女波可く志久志多、
みえ侍しまいて君たちの御ためはかくしくした、

可奈留御宇之呂三八奈尔、可八世左世給八无者可奈
かなる御うしろのみはなに、かはせさせ給はんはかな

之久知於之止可川三川、毛堂、我心尔川起春久
しくちおしとかつみつ、もた、我心につきすく

世能飛久可多侍女礼者遠乃己之毛奈武志左以奈起
せのひくかた侍めれはをのこしもなむしさいなき

【帯木】 35 左

物八侍女留止申世者乃己利遠以者世无上天左天く
物は侍めると申せはのこりをいはいせんとてさてく

御可之可利氣留女可那止寸可以給遠心八衣奈可良
おかしかりける女かなとすかい給を心はえなから

者那乃和多利於己徒幾天可多利奈寸左天以止飛左之
はなのわたりおこつきてかたりなすさていとひさし

久満可良左利之丹物乃多与利丹立与利天侍連者川年
くまからさりしに物のたよりに立よりて侍れはつね

乃宇地止氣為多留加多尔八侍良天心屋末之幾物
のうちとけめたるかたには侍らて心やましき物

己之尔天奈武安比天侍利布寸不留尔也止於己
こしにてなむあひて侍りふすふるにやとおこ

可末之久毛又与起不之奈利止毛思給不流尔己能左
かましくも又よきふしなりとも思給ふるにこのさ

加之人者多可呂く志起物衣无之春部幾尔毛安良春
かし人はたかろくしき物えんしすへきにもあらず

与乃多宇里越於毛飛止利天宇良美左利介利声毛
よのたうりをおもひとりてうらみさりけり声も

【帯木】 36 右

者也利可尔天以婦也宇月比布比也宇於毛起尔多部
はやりかにていふやう月比ふひやうおもきにたへ

可年天古久称地乃左宇屋久遠不久志天以止久左起尔
かねてこくねちのさうやくをふくしていとくさきに

与利奈武衣多以女无給八良奴末乃安多利奈良寸止毛
よりなむえたいめん給はらぬまのあたりならずとも

左類部可良無雜事等八字氣給良无止以止安八礼丹
さるへからむ雜事らはうけ給らんといとははれに

武部く志久以比侍利以良部尔奈尔止可八多、字計給
むへくしくいひ侍りいらへになにとかはたうけ給

奴止天多知出侍尔佐宇く志久也於本衣介无己乃可
ぬとてたち出侍にさうくしくやおほえけんこのか

宇世奈无時尔立与利太本部止多可也可耳以不遠幾、寸
うせなん時に立よりたまへとたかやかにいふをき、す

久左武毛以止於之志者之屋春良不部起尔八多侍良称
くさむいとおししはしやすらふへきにはた侍らね

者氣尔楚乃尔本比左部者奈也可尔多知曾部留毛
はけにそのにほひさへはなやかにたちそへるも

【帯木】 36 左

春部奈久帝尔氣女越徒可比天
すへなくてにけめをつかひて

左、可丹乃布留末比志留起由不暮尔飛留万
さゝかにのふるまひしるきゆふ暮にひるま

寸久世登以婦可安也奈左以可奈留己止川希曾也止以比毛
すくせといふかあやなさいかなることつけそやといひも

者天寿波之里出侍奴留尔於比天
はてすはしり出侍ぬるにおひて

安婦己止乃与越之遍多天奴中奈良者飛留末毛
あふことのををしへたてぬ中ならはひるまも

奈尔可末者遊可良末之左寸可尔久知止久奈止者侍
なにかまはゆからましきすかにくちとくなどは侍

幾止志徒く止申世者君多知安左満之止思天曾良己止
きとしつくと申せは君たちあさましと思てそらこと

止天王良飛給以徒古乃左留女可安留部幾於以良可尔
とてわらひ給いつこのさる女があるへきおいらかに

於尔止己曾武可比為多良女武久川計幾己止、徒末者
おにとこそむかひぬたらめむくつけきこと、つまは

【帯木】 37 右

志起遠志天以者无可多奈之止式部遠安八女尔久三天
しきをしていはんかたなしと式部をあはめにくみて

寿己之与呂之可良无己止遠申世止世女給部止古礼与利
すこしよろしからんことを申せとせめ給へとこれより

女川良之幾己止八候奈无也止天於利寸部帝於止己毛
めつらしきことは候なんやとておりすへておとも

女毛王呂物者我王徒可尔志礼留可多乃己止越能己利
女もわる物は我わつかにされるかたのことをのこり

奈久美世徒久左武止於毛部累己曾以止於之氣運
なくみせつくさむとおもへるこそいとおしけれ

三史五経乃三知く志起可多遠安幾良可尔左止利
三史五経のみちくしきかたをあきらかにさとり

安可左武己曾安以幾也宇奈可良女奈止可八女止以
あかさむこそあいきやうなからめなとかは女とい

者无可良丹世尔安累己止乃於本也氣王多久之尔
はんからに世にあることのおほやけたくしに

川氣天武希尔志良寸以多良寸志毛安良无王左登
つけてむけにしらすいたらすしもあらんわさと

【帯木】 37 左

奈良比末祢者寸止毛寿己之毛加止安良武人乃見、
ならひまねはすともすこしもかとおらむ人のみ、

尔毛女尔毛止末留己止志年无丹於保可留部之左累
にもめにもとまることしねんにおほかるへしさる

末、仁八末无奈遠波之里可幾天左留末之幾止地
まゝにはまんなをはしりかきてさるましきとち

乃女文尔奈可者寸幾天可起春久女多留安奈宇多天
の女文になかはすきてかきすぐめたるあなうたて

此人乃多越屋可奈良末之可八止三衣堂利心知仁八
此人のたをやかならましかはとみえたり心ちには

左之毛於毛八佐良女登遠乃徒可良己八く志起己恵
さしもおもはさらめとをのつからこはくしきこゑ

尔与見奈左礼奈止之徒、古止左良飛多利上藤乃
によみなされなとしつゝことさらひたり上藤の

中尔毛於本可留事楚可之歌与武止於毛部累人
中にもおほかる事そかし歌よむとおもへる人

乃屋可天歌尔万川八礼於可之幾布留己止遠毛者
のやかて歌にまつはれおかしきふることをもは

【帯木】 38 右

志免与利止里己三徒、春左末之幾於利く与見
しめよりとりこみつゝすさまじきおりくよみ

可氣多留己楚毛能之幾己止奈礼返之瀬祢者奈佐氣
かけたるこそものしきことなれ返しせねはなさけ

奈之衣世左良无人八者之太奈可良无左留部幾世知恵
なしえせざらん人はしたなからんさるへきせち系

奈登五月乃世知尔以曾幾万以流安之太奈尔乃
なと五月のせちにいそきまいるあしたなにの

安也女毛於毛比志徒女良礼奴尔衣奈良奴祢遠日起
あやめもおもひしつめられぬにえならぬねをひき

可希九日能衣无尔万川可多起詩乃心遠於毛比
かけ九日のえんにまつかたき詩の心をおもひ

女久良志天以止万奈起於利丹幾久乃露遠可己知
めくらしていとまなきおりにきくの露をかこち

与世奈止也宇乃川幾奈起以止奈見尔安八世左奈
よせなとやうのつきなきいとなみにあはせさな

良天毛遠乃川可良尔乃知尔於毛部者於可之久毛
らてもをのつからけにのちにおもへはおかしくも

【帯木】 38 左

安波連尔毛安部可利氣留己止乃曾能於利尔川幾
あはれにもあへかりけることのそのおりにつき

奈久女尔止末良怒奈止遠、之者可良寸与見以天
なくめにとまらぬなとを、しはからすよみいて

堂留中く心遠久連天美遊与呂徒乃己止尔奈止
たる中く心をくれてみゆよろつのことになと

可者左天毛止於本遊留於利可良止起く思日王
かはさてもとおほゆるおりからときく思ひわ

可奴者可利乃心尔天八与之者三奈左氣多、左良无
かぬはかりの心にてはよしはみなさけたゝさらん

奈武女也寸可留部幾寸部天心丹志連良无己止越毛
なむめやすかるへきすへて心にしれらんことをも

志良寸可本尔毛天奈之以者末本之可良武己止遠毛
しらすかほにもてなしいはまほしからむことをも

飛止川不多徒乃不之八寸久春部久奈無安部可利希留
ひとつふたつのふしはすすへくなむあへかりける

止以不尔毛君八人比止利乃御安利左満遠心能中尔
といふにも君は人ひとりの御ありさまを心の中に

【帯木】 39 右

思徒、希給古連丹多良須又左之寸起多留已止奈久
思つ、け給これにたらず又さしすきたることなく

毛能之給天氣留可那止安利可多幾尔毛以止、武年
ものし給てけるかなとありかたきにもいと、むね

不多可留以徒可多尔与利者川止毛奈久者天く八安也
ふたかるいつかたによりはつともなくはてくはあや

志幾已止、毛尔奈利天安可之給川可良宇之帝
しきこと、もになりてあかし給つからうして

氣婦八日乃希之幾毛奈越連利可久乃三古毛利左
けふは日のけしきもなをれりかくのみこもりさ

布良比給毛於保止乃、御心以止於之介礼者満可天
ふらひ給もおほと、御心いとおしければまかて

給部里於本可多乃氣之幾人乃希八比毛希佐
給へりおほかたのけしき人のけはひもけさ

屋可耳氣太可久三多礼堂留所未志良寿奈越
やかにけたかくみたれたる所ましらすなを

古連古楚八閑乃人能寸天可多久止利出之
これこそはかの人々のすてかたくなり出し

【帯木】 39 左

未女人尔者多乃未礼奴部介連登於本寸物可良安未
まめ人にはたのまれぬへけれどおほす物からあま

里宇留王志起御安利左満乃止氣可多久者徒可之
りうるわしき御ありさまのとけかたくはつかし

氣尔乃三於毛比志川未利給部累遠左宇く志久天
けにのみおもひしつまり給へるをさうくしくて

中納言乃君中徒可左奈止也宇乃遠之奈部多良奴
中納言の君中つかさなとやうのをしなへたらぬ

王可人止毛仁多者不連已止奈止乃給津、安徒左丹
わか人ともにたはふれことなどの給つ、あつさに

三多礼給部累御安利左万遠美留加比安利止
みたれ給へる御ありさまをみるかひありと

思幾已衣多利於止、毛王多利給天宇知止希給
思きこえたりおと、もわたり給てうちとけ給

部連者御木丁遍多天、於八之末之天御物可多利
へれば御木丁へたて、おはしまして御物かたり

幾古衣給遠安徒起丹止仁可三太末部八人々王良婦
きこえ給をあつきにとにかみたまへは人々わらふ

【帯木】 40 右

安奈可万止天氣宇楚久仁与利於者寸以止屋春良可
あなかまとてけうそくによりおはすいとやすらか

奈留御布留未并奈利也久良く奈留保止尔古与比奈
なる御ふるまふなりやくらくなるほとにこよひな

可加三字地与利八不多可利天侍利氣利止幾已遊左
かかみうちよりはふたかりて侍りけりときこゆさ

可之連以者以三給可多奈利介利二条院尔毛於奈
かしいはいみ給かたなりけり二条院にもおな

之寸知尔天以徒久丹可多可部无以止奈屋末之
しすちにていつくにかたかへんいとなやまし

幾尔止天於本止乃己毛礼利以止安之幾已止奈利
きにととおほとのこもれりいとあしきことなり

止己連可礼幾已遊幾乃可三尔天志多之久徒可宇
とこれかれきこゆきのかみにてしたしくつかう

末川留人乃中川乃王多利奈留家奈无此己呂水
まつる人の中川のわたりなる家なん此ころ水

世起人天寸、志起可氣丹侍止幾己由以止与可
せき人てす、しきかけに侍ときこゆいとよか

【帯木】 40 左

奈利奈屋末之幾仁宇之奈可良日起以連徒部可良无
なりなやましきにうしなからひきいれつへからん

止己呂遠登乃給志乃飛く乃於方多可部所八安未多
ところをとの給しのひくの御方たかへ所はあまた

安利奴部氣連止比左之久保止部天王多利給部累
ありぬへけれどひさしくほとへてわたり給へる

丹可多不多氣天比起多可部本可左末部登於本左无八
にかたふたけてひきたかへほかさまへとおほさんは

以止遠之幾奈留部之幾乃守尔於本世己止多末部者
いとをしきるへしきの守におほせことたまへは

宇氣給奈可良志曾起天伊与乃可三乃朝臣乃家尔
うけ給なからしそきて伊与のかみの朝臣の家に

徒、志武已止侍天女房奈无満可利宇川連累比尔天
つゝしむこと侍て女房なんまかりうつれる比にて

世者起所丹侍連者奈女計奈留己止也侍良无止志
せはき所に侍れはなめけなることや侍らんとし

多尔奈氣久遠幾、給天楚乃人知可、良无奈武
たになけくをき、給てその人ちかゝらんなむ

【帶木】 41右

【帶木】 41左

【帶木】 42右

【帶木】 42左

宇連之可留部幾女止越幾旅年八物於曾呂之幾心知
うれしかるへき女とをき旅ねは物おそろしき心ち

之堂利為中家多川柴可起之多世无左以奈止
したりぬ中家たつ柴かきしたせんさいなど

連者由可之久天見、止、女給部累尔古乃尔之於毛天
れはゆかしくてみ、と、め給へるにこのにしておもて

毛越幾、太末部者我御宇部奈類部之以止以多宇
もをき、たまへは我御うへなるへしいといたう

春部幾越堂、曾乃木丁乃宇之路尔止乃多末部者
すへきをたゝその木丁のうしろにとのたまへは

心止女天宇部多利風春、志久天楚己波可止奈起虫
心とめてうへたり風すゝしくてそこはかとなき虫

尔楚人乃氣八比寸留幾奴乃遠止奈比者良く止
にそ人のけはひするきぬのをとなひはらくと

万女多地天末多幾仁屋武己止奈起与寸可左多
まめたちてまたきにやむことなきよすかた

氣尔与呂之幾於末之所尔毛止天人者之良世也留
けによろしきおまし所にもとて人はしらせやる

乃声く幾己衣保多留志氣久飛万可比天於可
の声くきこえはたるしけく飛まかひておか

志天王可起声止毛尔久可良寸左寸可尔志乃比天して
わかき声ともにくからすすかにしのひて

末利給部累己曾左宇く志可女礼左連止左留部幾
まり給へるこそさうくしかめれされとさるへき

以止志乃飛天古止左良尔古止く志可良奴所遠止
いとしのひてことさらにことくしからぬ所をと

志起本止奈利人く王多殿与里出多留泉耳
しきほとなり人くわた殿より出たる泉に

王良比奈止春留氣八比古止左良飛多利可宇之
わらひなとするけはひことさらにひたりかうし

久満尔八与久己楚可久礼安利幾給奈礼奈止以婦
くまにはよくこそかくれありき給なれなといふ

以楚起出多末部者於止、尔毛幾己衣給八寸御止毛
いそき出たまへはおとゝにもきこえ給はす御とも

乃曾起為天左氣乃武安類之毛左可奈毛止武止
のそきぬてさけのむあるしもさかなもとむと

遠安氣多利希礼止可三心奈之止武川可利帝於呂
をあけたりけれとかみ心なしとむつかりておろ

尔毛於本寸己止乃三心丹閑、利給部連八万徒武年
にもおほすことのみ心にかゝり給へればまつむね

尔毛武川末之幾可起利志天於者之末之奴守尔八
にもむつまじきかきりしておはしましぬ守には

古遊留幾乃以曾幾安里久保止君八乃止屋可尔
こゆるきのいそきありくほと君はのとやかに

之川礼八火止毛之多累寸起可氣左宇之能可三与利
しつれは火ともしたるすきかけさうしのかみより

川不連天可也宇乃徒以天尔毛人乃以飛毛良左武遠
つふれてかやうのついても人のいひもらさむを

可尔止王不連止人毛幾、以連寸志无殿乃東於
かにとわふれと人もきゝいれすしん殿の東お

奈可女給天可能中乃志奈丹止利以天、以比之
なかも給てかの中のしなにとりいてゝいひし

毛里多留丹屋遠良与里給天美遊也止於本世止
もりたるにやをらより給てみゆやとおほせと

幾、川氣多良无時奈止於本衣給己止奈留己登奈希
きゝついたらん時なとおほえ給ことなることなけ

毛天者良比安計左世天可里楚女乃御之徒良比
もてはらひあけさせてかりそめの御しつらひ

己乃奈見奈良無可之止於本之以徒於毛比安可
このなみならむかしとおほしいつおもひあか

飛末之奈氣連者志八之幾、給尔此知可幾毛也尔
ひましなければしき、給に此ちかきもやに

連者幾、佐之給徒式部卿乃宮乃姫君尔朝
れはきゝさし給つ式部卿の宮の姫君に朝

志多利水乃心者部奈止左類可多丹於可之久志奈
したり水の心はへなとさるかたにおかしくしな

連流氣之幾尔幾、遠起多末部累武春女奈
れるけしきにきゝをきたまへるむすめな

徒止比為多留奈留部之宇地左、女起以不己止、
つとひぬたるなるへしうちさゝめきいふことゝ

可本多天末川利給之歌奈止遠寸己之本、遊可女天
かほたてまつり給し歌などをすこしほゝゆかめて

【帯木】 43 右

可多累毛幾己遊久徒呂幾可万志久歌春之可知
かたるもきこゆくつろきかましく歌すしかち

尔毛安留可那奈越三遠止利八志奈武可之止於本寸
にもあるかななをみをとりはしなむかしとおぼす

守以天幾天止宇呂可氣楚部火安可久加、氣奈止
守いてきてとうろかけそへ火あかくか、けなと

志帝御久多物者可利万以連利止波利地也宇毛以
して御くた物はかりまいれりとほりちやうもい

可尔曾八左流可多乃心毛奈久天八女左末之幾安
かにそはさるかたの心もなくてはめさましきあ

類之奈良无止乃太末部八奈尔与氣无止毛衣宇
るしならんとのたまへはなによけんともえう

希給八良寸止閑之己末利天左不良婦者之徒可多
け給はらずとかしこまりてさふらふはしつかた

乃於末之丹可利奈留屋宇尔天於本止乃己毛礼者
のおましにかりなるやうにておほとこのこもれば

人々毛志川末里奴安類之乃己止毛於可之希
人々もしつまりぬあるのこともおかしけ

【帯木】 43 左

尔天阿利和良八奈留殿上乃保止尔御覽之奈礼
にてありわらはなる殿上のほとに御覽しなれ

多類毛安利伊与乃寸氣能古毛安利阿末多安留
たるもあり伊与のすけのこもありあまたある

中尔以止氣八比安天者可丹天十三者可利奈留毛
中にいとけはひあてはかにて十二三はかりなるも

安利以徒連可以川礼奈止、比給尔古礼者己衛門乃
ありいつれかいつれなと、ひ給にこれは己衛門の

可三能春恵乃子尔天以止可那志久志侍氣留遠、左
かみのすゑの子にていとかなくし侍けるを、さ

奈起本止耳遠久連侍天安祢奈留人乃与寸可尔
なきほとにをくれ侍てあねなる人のよすかに

可久天侍奈利左衣奈登毛川起侍奴部久希之宇八
かくて侍なりさえなともつき侍ぬへくけしうは

侍良奴遠殿上奈止毛思給可氣奈可良寸可志宇八
侍らぬを殿上なとも思給かけなからすかくしうは

衣末之良比侍良左安累止申安波連乃古止也
えましらひ侍らさめると申あはれのことや

【帯木】 44 右

己乃安祢君也末宇止乃後能於也左奈无侍止申寸尔
このあね君やまうとの後のおやさん侍と申すに

尔氣奈起於也遠毛満宇希多利計留可那宇部尔毛
にけなきおやをもまうけたりけるかなうへにも

幾己之女之遠幾天宮徒可部丹以多之多天无止
きこしめしをきて宮つかへにいたしたてんと

毛良志楚宇世之以可尔奈利尔氣无止以徒曾也
もらしそうせいいかになりにけんといつそや

乃給八世之世己曾左太女奈幾物奈礼止以止於与寸
の給はせし世こそさためなき物なれといとおよす

氣乃給布以丹可久天毛能之侍也世中止以不物
けの給ふいにかくてもものし侍也世中といふ物

左乃三己曾以末毛昔毛左多末利多累己止侍良奴
さのみこそいまも昔もさたまりたること侍らぬ

奈可尔毛女乃寸久世八以止宇可比堂留奈武安者
なかにも女のすくせはいとうかひたるなむあは

連丹侍奈止幾己衣左寸以与乃寸氣可之徒久
れに侍なときこえさすいよのすけかしつく

【帯木】 44 左

也君止於毛不良无奈以可、八王多久之乃志宇止己曾思
や君とおもふらんないか、はわたくしのしうとこそ思

天侍女留遠寸起く之幾己止、奈丹可之与里者
て侍めるをすきくしきこと、なにかしよりは

志女天宇氣比幾侍良寸奈止申左利止毛満宇止
しめてうけひき侍らすなと申さりとまもうと

堂知乃徒起く志久以万女起多良无丹於呂之
たちのつきくしくいまめきたらんにおろし

多天无也八加乃寸希八以止与之安利天介之幾
たてんやはかのすけはいとよしありてけしき

者女流遠也奈登物可多利之給徒、以川可多仁曾見
はめるをやなと物かたりし給つ、いつかたにそみ

奈志毛屋尔於呂之侍女留遠衣也満可利於利安部
なしもやにおろし侍めるをえやまかりおりあへ

左良无止幾己遊恵比春、三天美奈人々寸乃己仁
さらんときこゆゑひす、みてみな人々すのこに

布之徒、志川末利奴君八止計天毛祢良連給八寸
ふしつ、しつまりぬ君はとけてもねられ給はす

【帶木】 45右

以多川良不之止於保左類、尔御女左免天己乃幾多能
いたつらふしとおほさるゝに御めさめてこのきたの

左宇之乃安奈多尔人乃氣八比春留遠己奈多也可久
さうしのあなたに人のけはひするをこなたやかく

以婦人濃可久礼多留可多奈良无安者礼也止御心止、
いふ人のかくれたるかたならんあはれやと御心と、

女天屋遠良於幾天多知幾、給部八安利徒留子乃
めてやをらおきてたちき、給へはありつる子の

声尔天毛能氣給八留以川久丹於八之未寸楚止可連
声にてものけ給はるいつくにおはしますそとかれ

多留己恵乃於可之幾尔天以部八古、尔楚不之多留未
たるこ糸のおかしきにていへはこゝにぞふしたるま

良宇登八祢給奴留可以可尔知可、良无止思徒留遠
らうとはね給ぬるかいかにかゝらんと思つるを

左礼止氣止越可里介礼止以婦祢多利氣留声乃
されとけとをかりけりといふねたりける声の

志止希奈起以止与久尔可与比太連者以毛宇止、幾、
しとけなきいとよくにかよひたれはいもうとゞき、

【帶木】 45左

給徒飛佐之尔楚於本止乃己毛里奴留遠止耳幾、
給つひさしにそおほとこのこりぬるをとにき、

徒流御安利左滿遠三多末末川利徒留氣尔己曾女天
つる御ありさまをみたてまつりつるけにこそめて

多可利介礼止美曾可尔以不飛留奈良末之可八乃楚幾
たかりけれとみそかにいふひるならましかはのそき

天美堂天末川利帝末之止祢不多氣尔以比天
てみたてまつりてましとねふたけにいひて

可保日起以連川留声寸祢多久心止、女天止比幾氣可
かほひきいれつる声すねたく心とゞめてとひきけか

志止安地幾奈久於本寸末呂八古、丹祢侍良无安那
しとあちきなくおほすまろはこゝにね侍らんあな

久良止天火可、氣奈止春部之女君八堂、古乃
くらとて火かゝけなとすへし女君はたゝこの

左宇之口寸地可比多留本止尔楚不之多留部幾中将
さうし口すちかひたるほとにぞふしたるへき中将

乃君八以徒久尔曾人氣止越幾心知之天物於曾呂
の君はいづくにそ人けとをき心ちして物おぞろ

【帶木】 46右

志止以婦奈礼者奈氣之能志毛耳人々不之天以良部
しといふなれはなけしのしもに人々ふしていらへ

春奈利志毛屋丹由尔於利天堂、以万末以良无止
すなりしもやにゆにおりてたゝいままいらんと

侍止以不美奈志徒末利多留氣八比奈礼者可氣可年遠
侍といふみなしつまりたるけはひなれはかけかねを

心三丹安氣太末部連者安奈多与利八佐、左利介里
心みにあけたまへれはあなたよりはさゝさりけり

木丁遠左宇之久知丹八多天、火八本乃久良幾仁
木丁をさうしくちにはたてゝ火はほのくらきに

三給部者可良飛徒多川物止毛遠、幾多礼者見多利
み給へはからひつたつ物ともをゝきたれはみたり

可八之幾中遠和氣入給帝氣八比之徒留所尔
かはしき中をわけ入給てけはひしつる所に

以利給部連者堂、飛止利以止左、屋可尔天不之多利
いり給へれはたゝひとりいとさゝやかにてふしたり

奈滿王川良八之氣連止宇部奈留幾奴遠、之屋留
なまわつらはしけれどうへなるきぬをゝしやる

【帶木】 46左

末天毛止女徒留人止於毛部利中将女之川連八奈武
までもとめつる人とおもへり中将めしつればなむ

人志連奴於毛飛乃志類之安留心知之天止乃給遠
人しれぬおもひのしるしある心ちしてとの給を

止毛閑久毛思王可連寸物尔於楚八留、心地之天
ともかくも思わかれす物におそはるゝ心地して

屋止遠比遊連止可本尔幾奴乃左八利天遠止尔毛
やとをひゆれとかほにきぬのさはりてをとにも

多天寸宇地川氣尔布可、良奴心乃保止、三太末不
たてすうちつけにふかゝらぬ心のほどゝみたまふ

良無古止八里奈礼止止之比於毛飛王多留心能中
らむことはりなれととし比おもひわたる心の中

毛幾己衣志良世武止天奈无可、流於利遠待出多留毛
もきこえしらせむとてなんかゝるおりを待出たるも

左良尔安佐久八阿良志登思奈之給部止以止屋八良
さらにあさくはあらしと思なし給へといとやはら

可丹乃給天於尔神毛安良多徒末之幾氣八比奈
かにの給ておに神もあらたつましきけはひな

【帯木】 47右

連者波之多奈久古、仁人乃止毛衣能、志良寸心知
れははしたなく、こゝに人のともえの、しらす心ち

八多王飛志久安累末之幾已止、於毛部者安佐末之久
はたわひしくあるましきこと、おもへはあさましく

人多可部丹已曾侍女連止以不毛以幾能之多奈利幾衣
人たかへにこそ侍めれといふもいきのしたなりきえ

末止部累氣之幾以止心久類之久羅宇太氣奈礼者
まとへるけしきいと心くるしくらうたけなれは

於可之止見給天太可不部久毛安良奴心乃志類部遠思
おかしと見給てたかふへくもあらぬ心のしるへを思

八寸尔毛於本女以給可奈春起可末之幾佐万尔八与
はすにもおほめい給かなすきかましきさまにはよ

尔見衣多末末川良志於毛不已止寸己之幾已遊部幾
に見えたてまつらしおもふことすこしきこゆへき

楚止天以止知以左也可奈礼者可起以多幾天左宇之
そとていとちいさやかなれはかきいたきてさつし

乃毛登以天給尔楚毛止女川留中将多徒人幾安比
のもといひ給にそもとめつる中将たつ人きあひ

【帯木】 47左

多累屋、止乃給尔安也志久天左久利与里多累尔
たるや、との給にあやしめてさくりよりたるに

曾以美志久尔本比三知天可本尔毛久由利閑、留
そいみしくにほひみちてかほにもくゆりかゝる

心地春留尔於毛比与利奴安左末之宇古八以可奈留
心地するにおもひよりぬあさましようこはいかなる

己止楚止思満止八留連止幾已衣无可多奈之奈見
ことそと思まとはるれときこえんかたなしなみ

奈三乃人奈良八已曾安良、可丹毛日起可奈久良女
なみの人ならばこそあらゝかにもひきかなくらめ

楚礼多尔飛止乃安末多志良无八以可、安良武心毛
それたにひとのあまたしらはいかゝあらむ心も

左者幾天志多比幾多連止止宇毛奈久天於久奈留
さはきてしたひきたれとともなくておくなる

於末之丹入給奴左宇之遠日起多天、安可月尔
おましに人給ぬさつしをひきたて、あか月に

御武可部尔物世与止乃給部者女八古乃人乃於毛不良无
己止
御むかへに物せよとの給へは女はこの人のおもふらん

【帯木】 48右

左部志奴者可利王利奈起尔奈可類、末天安世尔成天
さへしぬはかりわりなきになかるゝまてあせに成て

以止奈也末之氣奈留以止於之氣礼止連以乃以徒久
いとなやましけなるいとおしけれとれいのいつく

与利止宇天給己止乃葉丹可安良无安者礼志留者可利
よりとつて給ことの葉にかあらんあはれしるはかり

奈左計く之具乃給徒久寸部可女礼止奈越以止安佐末
なさけくしくの給つくすへかめれとなをいとあさま

志起丹宇川、止毛於本衣寸己曾可寸奈良奴身奈可良毛
しきにうつゝとおほえすこそかすならぬ身ながらも

於本之久多之希累御心乃保止毛以可、安佐久八思
おほしくたしける御心のほともいかゝあさくは思

給部左良无以止閑也宇奈留幾八、幾波止己曾侍奈
給へさらんいかやうなるきはゝきはとこそ侍な

連止天可久於之多地太末部累遠不可久奈左氣奈久
れとてかくおしたちたまへるをふくくなさけなく

宇良女之登於毛比以利多留左満毛氣仁以止於志久
うらめしとおもひりたるさまもけにいとおしく

【帯木】 48左

心者徒可之幾氣八比奈礼者曾乃幾八く遠末多
心はつかしきけはひなれはそのきはくをまた

志良奴宇以己止楚也中く遠之奈部多留川良丹於
しらぬういことそや中くをしなへたるつらにお

毛飛奈之給部累奈武宇多天安利氣留遠乃川可良
もひなし給へるなむうたてありけるをのつから

幾、給屋宇毛安良无安奈可知奈留寸起心八佐良尔
き、給やうもあらんあなかななるすき心はさらに

奈良八奴遠左留部幾尔也氣仁可久安八女良連多末末川
ならはぬをさるへきにやけにかくあはめられたてまつ

類毛古止八里奈留心末止比遠美徒可良毛安也之
るもことはりなる心まとひをみつからもあやし

幾末天奈武奈止末女多地天与呂徒尔乃給部止以止
きまでなむなとめたちてよろつにの給へといと

堂久比奈起御安利左満乃以与く宇地止氣幾
たくひなき御ありさまのいよくうちときき

古衣無己止和比之氣礼者寸久与可尔心川起奈之止
こえむことわひしければすくよかに心つきなしと

【帯木】 49 右

【帯木】 49 左

【帯木】 50 右

【帯木】 50 左

者美衣多天末川留止毛左類可多乃以不可比奈起尔天
はみえたてまつるともさるかたのいふかひなきにて

奈起左満奈類之毛己曾契安果止八思給者女
なきさまなるしもこそ契あるとは思給はめ

契奈久左免給古止於保可留部之鳥毛奈幾奴人々
契なくさめ給ことおほかるへし鳥もなきぬ人々

毛安者礼毛安左可良奴世乃思出八左満く女川良可
もあはれもあさからぬ世の思出はさまくめつらか

春久之天无止思天川礼奈久乃三毛天奈之多利人
すくしてんと思つれなくのみもてなしたり人

武気尔世遠於毛飛志良奴屋宇尔於本、連絡奈無
むけに世をおもひしらぬやうにおほ、れ給なむ

於起出天以止為幾多奈可利氣留夜可那御車日起
おき出ていとあきたなかりける夜かな御車ひき

奈類部幾堂免之可那止天宇地奈起給御氣之幾以止
なるへきためしかなとてうちなき給御けしきいと

可良乃多越也起多留尔徒与起心遠志為天久八部多
からのたをやきたるにつよき心をしめてくはへた

以止川良起止宇良見良礼天以登可久宇起身乃保止
いとつらきとらみられていとかくうき身のほと

以天与奈止以不奈利守毛出幾天女奈止乃御可多、
いてよなといふなり守も出て女などの御かた、

奈満女起多利鳥毛志者く奈久仁心安八多、志久天
なまめきたり鳥もしはくなくに心あはた、しくて

連者奈与竹乃心知之天左寸可尔於留部久毛安良
れはなよ竹の心ちしてさすかにおるへくもあら

乃左多末良奴安里之奈可良能身尔天可、累御心者部遠
のさたまらぬありしなからの身にてかゝる御心はへを

可部己楚与不可久以楚可世給部幾可八奈登以不君八
かへこそよふかくいそかせ給へきかはなといふ君は

徒連奈起遠恨毛者天奴志能、女尔止利安部奴
つれなきを恨もはてぬしの、めにとりあへぬ

須満己止耳心屋末之久天安奈可知奈留御心者部遠
すまことに心やましてあなかななる御心はへを

見末之可八安類末之幾我多乃三尔天美奈越之給
見ましかはあるまじき我たのみにてみなをし給

又可也宇乃徒以天安良無己止毛以止可多之佐之者部
又かやうのついてあらむこともいとかたしさはへ

末天於止呂可寸良無女身乃安利左満遠於毛不丹
まておとろかすらむ女身のありさまをおもふに

以婦可多奈之止於毛比天奈久佐万奈止以止安八礼也
いふかたなしと於毛ひてなくさまなといとあはれ也

乃地世毛也止毛思給部奈久左女末之遠以止可宇加利
のちせもやとも思給へなくさめましをいとかうかり

天八以可天可御不三奈止毛閑与者武己止乃以止王利
てはいかてか御ふみなともかよはむことのいとわり

以止徒起奈久末者由幾心知志天女天多起御毛天
いとつきなくまはゆき心ちしてめてたき御もて

心久類志久八安礼止見左良末之可八久知於之可良
心くるしくはあれと見さらましかはくちおしから

奈留宇起祢乃保止遠思侍尔多久比奈久思不給
なるうきねのほとを思侍にたくひなく思ふ給

奈幾越於本寸尔以止武祢以多之於久乃中将毛
なきをおほすにいとむねいたしおくの中将も

奈之毛奈尔止毛於本衣須川祢八以止寸久く志久
なしもなにともおほえすつねはいとすくしく

末之止於本寸奈久佐女可多久宇之止於毛部連者
ましとおほすなくさめかたくうしとおもへれは

部末止八類、奈利子之以満者三幾止奈可希楚止天
へまとはるゝなりよしいまはみきとなかけそとて

出天以止久類之可連者遊留之給天毛又日起止、女
出ていとくるしかれはゆるし給ても又ひきと、め

心川起奈之止於毛飛安奈徒留伊与乃可多能三思
心つきなしとおもひあなつる伊与のかたのみ思

奈止可久宇登末之幾物尔志毛於本寸部幾於本衣
なとかくうとましき物にしもおほすへきおほえ

於毛部累佐万氣仁以止古止八利奈利遠呂可那良寸
おもへるさまけにいとことほなりをろかならす

給徒、以可天可幾己由部幾与尔志良奴御心乃徒良左
給つ、いかてかきこゆへきよにしらぬ御心のつらさ

屋良連天夢尔也三遊良无止空於楚呂志久徒、
やられて夢にやみゆらんと空おそろしくつ、

【帯木】 51右

【帯木】 51左

【帯木】 52右

【帯木】 52左

末之
まし

遠身尔之武者可利於毛部累寸幾心止毛安女利月八
を身にしむはかりおもへるすき心ともあめり月は

給春久礼多累已止者奈氣礼止女也寸久毛天徒介天毛
給すくれたることはなけれとめやすくもてつけても

奈留人丹能給三无止申寸毛武祢川不連天於保世止
なる人にの給みんと申すもむねつふれておほせと

身乃宇左遠奈氣久仁安可天阿久累与八止里
身のうさをなけくにあかてあくるよはとり

安利明尔天比可里於左末連類物可良可本氣左也可尔
あり明にてひかりおさまれる物からかほけさやかに

安利徒留中乃之那可奈久滿奈久見安川女多留人
ありつる中のしなかくまなく見あつめたる人

楚乃安年君八安曾无乃遠止宇止也毛多留左毛侍良
そのあね君はあそんのをとつとやもたるさも侍ら

可左祢天楚音毛奈可礼氣留已止、安可久奈礼者左宇
かさねてそ音もなかれけること、あかくなればさう

美衣天中く於可之幾安氣保乃奈利奈尔心奈起空
みえて中くおかしきあけほのなりなに心なき空

乃以比之已止八氣仁止於本之安者世良連介利己乃
のいひしことはけにとおほしあはせられけりこの

春古乃二止世者可里曾可久天物之侍連止於也能遠
すこの二とせはかりそかくて物し侍れとおやのを

之久地末天遠久里給宇知毛止毛人左八可之介連者
しくちまてをくり給うちもとも人さはかしければ

乃氣之幾毛堂、美留人可良衣无尔毛寸己久毛見
のけしきもたゝみる人からえんにもすくも見

保止八於本止乃尔能三於八之末寸奈越以止可起多衣天
ほとはおほとのにのみおはしますなをいとかきたえて

幾天丹多可部利止思奈氣幾天心遊可奴也宇尔奈無
きてにたかへりと思なけきて心ゆかぬやうになむ

日起多天、王可礼給保止心本曾久遍多川留閑乃止三衣
ひきたてゝわかれ給ほと心ほそくへたつる閑のとみえ

遊累奈利氣利人志礼奴御心尔八以止武祢以多久
ゆるなりけり人しれぬ御心にはいとむねいたく

於毛不良无已止乃以止於之久御心丹可、利天久類之久
おもふらんことのいとおしく御心にかゝりてくるしく

幾、給不留安者礼乃己止也与呂之久幾己衣之人
き、給ふるあはれのことやよろしくきこえし人

堂利御奈越之奈登幾給天南乃可宇良武尔志者之
たり御なをしなとき給て南のかうらむにしはし

古止川天屋良无与寸可多仁奈起遠止可部利三可知丹
ことつてやらんよすかたになきをとかへりみかちに

於本之王比天幾能可三遠女之多利加乃有之
おほしわひてきのかみをめしたりかの有し

楚可之滿古止尔与之也止乃給部八氣之宇八侍良
そかしまことによしやとの給へはけしうは侍ら

宇地奈可女給尔之於毛天乃可宇之以楚幾安氣帝
うちなかめ給にしおもてのかうしいそきあけて

天出給奴殿尔可遍利給天毛止見尔毛滿止呂末連
て出給ぬ殿にかへり給てもとみにもまところまれ

中納言乃子八衣左世天无也羅宇多計尔美衣之遠
中納言の子はえさせてんやらうたけにみえしを

左留部之毛天者奈礼天宇登く志宇侍連八世乃多止
さるへしもてはなれてうとくしう侍れは世のたと

人々乃曾久部可女利春乃己能中乃本止尔多天多留
人々のそくへかめりすのこのほにとたてたる

給八寸又安比美留部幾可多奈幾越末之天可乃人乃
給はす又あひみるへきかたなきをましてかの人の

身地可久徒可宇尔尔世武宇部尔毛王連多天末川良无
身ちかくつかう人にせむうへにもわれたてまつらん

以尔天武徒連侍良寸止申左天五六日安利天古乃
いにてむつれ侍らすと申さて五六日ありてこの

古左宇之乃可見与里本乃可尔美衣給部累御安利左滿
こさうしのかみよりほのかにみえ給へる御ありさま

於毛不良无心乃中遠以可奈良武止心久類之久思屋利
おもふらん心の中をいかならむと心くるしく思やり

止乃給部八以止可之己起於保世己止仁侍奈利安祢
との給へはいとかしこきおほせことに侍なりあね

子以天万以礼利己末也可尔於可之止八奈氣礼止奈滿
子いてまいれりこまやかにおかしとはなけれとなま

【帯木】 53 右

【帯木】 53 左

【帯木】 54 右

【帯木】 54 左

女起多累佐万志天安人止美衣多利女之以連天
めきたるさましてあて人とみえたりめしいれて

堂奈久天左寸可耳御文遠於毛可久之仁日呂氣
たなくてさすがに御文をおもかくしにひろけ

申左武止以婦丹心屋万志久乃己利奈久乃給八世志
申さむといふに心やましくのこりなくの給はせし

志可く登申仁以婦可比奈乃己止也安左満之止天又
しかくと申にいふかひなのことやあさましとて又

以止奈川可之久可多良飛給王良八心知丹以止女天
いとなつかしくかたらひ給わらは心ちにいとめて

多利以登於本久帝
たりいとおほくて

良世天氣類止於毛不耳川良幾己止可起利奈之以天
らせてけるとおもふにつらきことかきりなしいて

毛給部利安己者志良之奈楚乃伊与乃於幾奈与利
も給へりあこはしらしなその伊与のおきなより

堂久宇礼之止於毛不以毛宇止乃君能己止毛久八之具
たくうれしとおもふいもうとの君のこともくはしく

見之夢遠安不与安利屋止奈氣久未尔女左部
見し夢をあふふありやとなけくまにめさへ

遠与寸氣多累己止八以者奴楚与之左八奈万以利
をよすけたることはいはぬそよしさはなまいり

八左起丹見之人曾左礼止多乃毛之氣奈久具飛
はさきに見し人そされとたのもしけなくひ

止比幾、給左類部幾己止八以良部幾己衣奈止之天
とひき、給さるへきことはいらへきこえなとして

安者天楚己呂毛部丹氣留奴留与奈希礼者奈止女毛
あはてそころもへにけるぬるよなければなとめも

給留止武徒可良礼天女寸丹八以可天可八止天万以利奴
給ぞとむつかられてめすはいかてかはとてまいりぬ

本曾之止天布徒、可奈留宇之呂三満宇計天閑久
ほそしとてふつ、かなるうしろみまうけてかく

者徒可之氣尔志徒末利多礼者宇地以天尔久之
はつかしけにしつまりたれはうちいてにくし

於与者奴御可起佐万毛女毛幾利天心衣奴寸久世
およはぬ御かきさまもめきりて心えぬすくせ

幾乃守寸起心尔此末、母乃有左満遠安多良之起
きの守すき心に此ま、母の有さまをあたらしき

安奈川利給奈女利左里止毛安己八我已尔天遠安礼
あなつり給なめりさりとあこは我こにてをあれ

左礼止以止与久以飛之良世給閑、累己止古楚八
されといとよくいひしらせ給かゝることこそは

宇地楚部利氣留身遠思徒、氣天不之給部利又
うちそへりける身を思つ、けてふし給へり又

物耳思天徒以世宇之安利氣八古乃子越毛毛天可之
物に思てついせうしありけはこの子をもてかし

与可乃多乃毛之人八由久左起三之可、利奈武登
よかのたのもし人はゆくさきみしか、りなむと

止本乃心宇留毛於毛飛乃本可奈礼止遠左那心知尔
とほの心うるもおもひのほかなれとをさな心ちに

乃日己君女之多礼者万以累止天御可部利己婦
の日己君めしたれはまいるとて御かへりこふ

川起為天安利具君女之与世天昨日末地暮之
つきぬてありく君めしよせて昨日まち暮し

乃給部者左毛也安利氣无以三之可里氣累己止可那
の給へはさもやありけんいみしかりけることかな

婦可久志毛太止良寸御不三遠毛天幾多連者女安佐万
ふかくしもたとらず御ふみをもてきたれは女あさま

閑、累御文美留部幾人毛奈之止幾己衣与止乃給部八
かゝる御文みるへき人もなしときこえよとの給へは

志遠奈越安飛於毛不末之幾奈女利止衣无之
しをなをあひおもふましきなめりとえんし

止於毛部累遠於可之止於本寸此子越末川八之給天
とおもへるをおかしとおほす此子をまつし給て

志幾仁涙毛以天幾奴此子乃於毛不良无己止毛波之
しきに涙もいてきぬ此子のおもふらんこともはし

宇知恵三天多可不部久毛乃給八左里之物遠以可、左八
うちゑみてたかふへくもの給はさりし物をいかゝさは

給部八可本宇地安可女天為多利以徒良止乃給丹
給へはかほうちあかめてめたりいつらとの給に

宇地丹毛為天万以利奈止之給主可御久之氣殿丹
うちにもぬてまいりなし給わか御くしけ殿に

【帯木】 55右

【帯木】 55左

【帯木】 56右

【帯木】 56左

乃給天左宇楚久奈止毛世佐世満己止仁於也女幾天
の給てさうそくなどせさせまことにおやめきて

之於古多累時乃末毛奈久心久類志具毛恋之久
しおこたる時のまもなくくるしくも恋しく

与呂古不己君丹八飛留徒可多与里可久奈無忌与礼礼止
よろこぶ君にはひるつかたよりかくなむ思ふれりと

連者可多八良以多之奈屋末之氣礼者志乃比天
れはかたはらいたしなやましければしのひて

安徒可比給御文八川祢尔安利左礼止此子毛以止
あつかひ給御文はつねにありされと此子もいと

毛於本之以徒於毛部利之氣之幾奈止乃以止於之
もおほしいつおもへりしけしきなどのいとおし

乃給知幾礼礼安氣久連末川八之奈良八之給氣礼者
の給ききれりあけくれまつはしならはし給ければ

宇地多、可世奈止毛世武尔保止者奈連天遠止天
うちたゝかせなともせむにほとはなれてをとて

於左奈之心与里保可尔知利毛世者可呂志起名
おさなし心よりほかにちりもせはかろゝしき名

左毛者類氣無可多奈久於本之和多留可流志久
さもはるけむかたなくおほしわたるかるゝしく

古与比毛万徒女之出多利女毛左流御世宇楚己安利
こよひもまつめし出たり女もさる御せうそこあり

王多殿丹中将止以飛之可川本年志多留可久礼尔
わた殿に中将といひしかつほねしたるかくれに

左部止利楚部无身乃於本衣遠以止徒起奈可類部久
さへとりそへん身のおほえをいとしきなるへく

者比満幾礼立与利給八无毛人女志氣可良无所丹
はひまされ立より給はんも人めしけからん所に

氣累丹於本之太者可利徒良无保止八安佐久志毛思
けるにおほしたはかりつらんほとはあさくしも思

宇徒呂飛奴左累心之伝人止久志徒女天御世宇
うつろひぬさる心して人どくしつめて御せう

於毛部者女太多起己止毛我身可良己留止思天宇地止希
おもへはめてたきことも我身からこそ思てうちとけ

飛无奈起布留末井也安良者礼无人乃太女毛以止
ひんなきふるまぬやあらはれん人のためもと

奈左連祢止左礼止天宇地止氣人希奈起安利左満
なされねとざりとてうちとけ人けなきありさま

楚己安連登己君衣多川祢安者寸与呂川乃所
そこあれとこ君えたつねあはすよろつの所

多累御以良部毛幾己衣須本乃可奈里之御氣八比
たる御いらへもきこえすほのかなりし御けはひ

於志久止於本之王川良婦連以乃宇知仁日可寸部給
おしくとおほしわつらふれいのうちにひかすへ給

遠美衣多末末川利天毛安知幾奈久夢乃屋宇尔天
をみえたてまつりてもあちきなく夢のやうにて

毛止女安利幾天王多止乃尔王氣以利天可良宇
もとめありきてわたとのにわけいりてからう

安利佐万八氣尔奈部天尔也八止思以天幾己衣奴尔八
ありさまはけになへてにやはと思いてきこえぬには

己呂左類部幾可多乃以三末地以天給天丹八可尔
ころさるへきかたのいみまちいて給てにはかに

春起尔之奈氣幾遠又也久者部无止思見多連
すきにしなけきを又やくはへんと思みたれ

志天多止利幾多利以登安左満志久徒良志止思天
してたとりきたりいとあさましくつらしと思て

安良祢止於可之幾左満遠美衣多末末川利天毛奈尔、
あらねとおかしきさまをみえたてまつりてもなにゝ

末可天給末祢之天美知乃程与利於者之末之多利
まかて給まねしてみちの程よりおはしましたり

天奈越左天末地川氣幾己衣左世无己止乃満者
てなをさてまちつけきこえせんことのまは

以可尔可比奈之止於保左武止奈起奴者可利以部者
いかにかひなしとおほさむとなきぬはかりいへは

可者奈留部幾奈止思可部春奈利氣利君八於保
かはなるへきなと思かへすなりけり君はおほ

幾乃可三於止呂幾天也利水乃女以本久止可之己末利
きのかみおとろきてやり水のめいほくとかしこまり

遊氣礼者小君乃出天以奴留本止尔以止氣知可希
ゆければ小君の出いてぬるほとにいとけちかけ

閑久氣之可良奴心者川可不物可遠左奈起人乃可、留
かくけしからぬ心はつかふ物をさなき人のかゝる

【帯木】 57右

【帯木】 57左

【帯木】 58右

【帯木】 58左

己止比川多婦留八以美志久以武奈留物遠止比比於
ことひつたふるはいみしくいむなる物をといひお

見多累止天毛可久天毛以万八以婦可飛奈起寸久世
みたるとてもかくてもいまはいふかひなきすくせ

奈久未止飛奴留可那幾古衣无可多己楚奈氣礼止
なくまとひぬるかなきこえんかたこそなければと

己楚心毛止万連登可徒者於本之奈可良女佐末之久
こそ心もとまれとかつはおほしなからめさましく

止之天心知奈也末志氣礼者人々左計須遠左部
として心ちなやましければ人々さけすをさへ

奈利氣礼者武志无丹心川幾奈久天屋三奈武止
なりければむしんに心つきなくてやみなむと

乃多末部利女毛左寸可尔未止呂万左利希礼者
のたまへり女もさすかにまところまさりければ

川良氣礼者左八安礼止於本世止佐毛衣於本之者徒
つらければさはあれとおほせとさもえおほしはつ

左世天奈武止幾古衣左世与安也之止多礼毛く
させてなむときこえさせよあやしとたれもく

於毛比者天多利君八以可尔太者可利奈左武止末多遠
おもひはてたり君はいかにたはかりなさむとまたを

可寸奈良奴不世屋尔於布留名乃宇佐尔安累
かすならぬふせ屋におふる名のうさにある

万志久閑久連多良无所尔奈越以天以希止乃
ましくかくれたらん所になをいていけとの

於毛不良无止以飛者奈知天心乃中尔八以止可久志奈
おもふらんといひはなちて心の中にはいとかくしな

左奈起遠宇之路女多具末地不之給部類尔不与宇
さなきをうしろめたくまちふし給へるにふよう

尔毛安良須幾遊留者、幾、止幾古衣多利小君
にもあらずきゆるは、き、ときこえたり小君

太末部止以止武川可之氣尔左之己女良連天人
たまへといとむつかしけにさしこめられて人

左多末利奴留身乃於本衣奈良天春起尔之於也乃
さたまりぬる身のおほえならてすきにしおやの

奈留与之遠幾古遊連者安左末之久女川良可奈利
なるよしをきこゆればあさましくめつらかなり

以止く於之左尔称不多久毛安良天滿止比安利久
いとくおしさにねふたくもあらてまとひありく

安末多侍女連者可之己希尔止幾己由以止於之止
あまた侍めれはかしけにときこゆいとおしと

御氣八比止末礼留故郷奈可良多滿左可尔毛末知
御けはひとまれる故郷なからたまさかにもまち

氣流心乃保止遠身毛以止者徒可之久己楚奈里
ける心のほとを身もいとはつかしくこそなり

遠人安也之止美留良无止和比給連以乃人々者以
を人あやしとみるらんとわひ給れいの人々はい

於毛部利与之安己多丹奈寸天楚止乃多末比天
おもへりよしあこたになすてそとのたまひて

川希多天末川良八於可之久毛也安良末之志為天思
つけたてまつらはおかしくもやあらまししぬて思

奴礼止以止く於之幾御氣之幾奈利止者可利
ぬれといとくおしき御けしきなりとはかり

幾多奈起尔日止所者寸、呂丹春左末之久於
きたなきにひと所はす、ろにすさましくお

御可多八良尔布世多末部利王可久奈徒可之幾御
御かたはらにふせたまへりわかくなつかしき御

志良奴可本尔見氣徒毛以可尔本止志良奴屋宇仁
しらぬかほに見けつともいかにほとしらぬやうに

物毛乃給者寸以堂宇宇女幾天宇之止於本之多利
物もの給はすいたうめきてうしとおほしたり

本之徒、希良類連登人丹、奴心佐万乃奈越幾衣
ほしつ、けらるれと人に、ぬ心さまのなをきえ

安利左滿遠宇連志久女天多之止於毛飛多礼者
ありさまをうれしくめてたしとおもひたれば

於本寸良無止心奈可良毛武年以多久左寸可尔思日
おほすらむと心なからもむねいたくさすかに思ひ

者、木、乃心遠志良天曾能八良乃美知仁安也
は、木、の心をしられてそのはらのみちにあや

須多地乃本礼氣留毛称多久可、累尔川希天
すたちのほれりけるもねたくかゝるにつけて

川礼奈起人与利八中く安者連尔於保左留止楚
つれなき人よりは中くあはれにおほさるとそ

【帶木】 59 右

【帶木】 59 左

此一冊者延徳第二之曆残蠟
中五之候依中書省承國雄
芳命難去不顧禿毫之恥
令終書写之功則遂校合
者也

金紫光禄大夫藤臣花押

【空蟬】 3左

弥良連給者奴末、尔我八加久尔仁久末礼
ねられ給はぬまゝに我はかく人ににくまれ

天毛奈羅者奴遠己与比奈武者之女天宇之止世
てもならはぬをこよひなむはしめてうしと世

遠於毛比志利奴連八者川可之宇天奈可良婦末之
をおもひしりぬれはつかしうてなからふまし

久己曾於毛比奈利奴礼奈止乃多末部八涙遠
くこそおもひなりぬれなどのたまへは涙を

佐部己本之天不之堂利以止羅宇堂之登於
さへこほしてふしたりいとらうたしとお

保寸手左久利乃本曾久知以左起程可三能
ほす手さくりのほそくちいさき程かみの

以止奈可、羅左里之氣者比乃左満尔加与比
いとなかゝらさりしけはひのさまにかよひ

堂留毛思比奈之尔也安者礼奈利安奈可知尔
たるも思ひなしにやはれなりあなかに

閑、徒良比多止利与良武毛人王呂加留部久
かゝつらひたとりよらむも人わろかるへく

【空蟬】 4右

満女也可尔女左満之止於本之安可之川、連以乃
まめやかにめさましとおほしあかしつゝ、れいの

屋宇尔毛乃多末比満止者左寸夜不可宇以天
やうにものたまひまとはさす夜ふかういて

多末部八己乃子八以止遠之久佐宇く之止
たまへはこの子はいとをしくさうくしと

思不女毛奈三く奈良須加多者良以堂之登
思ふ女もなみくならずかたはらいたしと

於毛不尔御世宇曾己毛堂衣天奈之於保之
おもふに御せうそこもたえてなしおほし

古利尔介留止思不尔毛屋可天川連奈久天也
こりにけると思ふにもやかてつれなくてや

見給奈末之可八字可良満之志并天以止遠之
見給なましかはうからまししぬていとをし

幾御布留末比堂衣佐良武毛宇多天安留遍
き御ふるまひたえさつむもつたてあるへ

之与起程尔加久天止知女武止思不物可良
しよき程にかくとちめむと思ふ物から

【空蟬】 4左

堂、奈良須奈可女加知奈利君八心徒幾奈之
たゝならずなめかちなり君は心つきなし

止於保之奈可良加久天八衣也武末之宇御心尔
とおほしなからかくてはえやむましう御心に

閑、利人王呂久於本之主比天己君尔以登
かゝり人わろくおほしわひてこ君にいと

徒良宇毛宇礼堂久毛於本遊留尔志并天
つらうもうれたくもおほゆるにしぬて

於毛比可部世止心尔之毛志多可者寸久類
おもひかへせと心にしもしたかはすくる

志幾遠佐利奴部幾於利遠三天多以女无寸
しきをさりぬへきおりをみてたいめんす

遍久多者可礼止乃多末比王多連波王川
へくたはかれとのたまひわたればわつ

羅者之介礼止閑、流可多尔天毛乃多末比
らはしけれとかゝるかたにてもものたまひ

末川者寸八字礼之宇於保衣介利遠左奈幾心知
まつはすはうれしうおほえけりをさなき心ち

【空蟬】 5右

尔以可奈良武於利尔止待王多留尔幾能可三
にいかならむおりにと待わたるにきのかみ

久尔、久堂利奈止志天女止知乃止也可
くに、くたりなとして女どちのとやか

奈留夕也見能三知堂止く之希奈留満
なる夕やみのみちたとくしけなるま

幾礼尔我尔天以帝堂天末川留己乃己毛
きれに我車にていてたてまつるこのこも

遠左奈起遠以可奈良武止於保世止左乃三毛
をさなきをいかならむとおほせとさのみも

盈於本之乃止武末之関利介礼八佐利遣
えおほしのとむましかりければさりけ

奈幾寸可多尔天門奈止佐、奴左起尔止以
なきすかたにて門なとさゝぬさきにとい

曾幾於者寸人見奴可多与里比幾以連天
そきおはす人見ぬかたよりひきいれて

於呂々堂天万徒留王良八奈礼者止乃為人奈止
おろしたてまつるわらはなれはとのぬ人など

【空蟬】 5左

毛己止尔見以連徒以世宇世須心也春之日武
もことに見れいついせうせず心やすしむむ

加之乃徒末止尔多天く万徒利我者南乃
かしのつまにとたてくまつり我は南の

寸三乃満与利加宇之堂、幾乃、志利天以利
すみのまよりかうしたゝきの、しりていり

奴己多知安良八奈礼止以不奈利奈曾可宇安
ぬこちあらはなりといふなりなそかうあ

川幾尔己乃可宇之八於呂左礼多留止止部八比留
つきにこのかうしはおろされたとへはひる

与里尔之乃御可多能王多良世給天暮宇多
よりにしの御かたのわたらせ給て暮うた

勢給止以不左天武可比為多良武遠見者也止
せ給といふさてむかひぬたらむを見はやと

思比天屋遠良安遊三以天、春堂礼乃者左
思ひてやをらあゆみいて、すたれのはさ

末尔以利多末比奴己乃以利徒留加宇之者
まにいらたまひぬこのいりつるかうしは

【空蟬】 6右

末多佐、称八比万三遊留尔与利天尔左満
またさゝねはひまみゆるによりてにきま

尔見止越之給部八己乃幾者尔堂天多留比
に見とをし給へはこのきはにたてたるひ

屋宇不毛者之乃加多遠之堂、末礼多流尔万
やつふもはしのかたをしたゝまれたるにま

幾流部幾木丁奈止毛安徒介礼八尔也宇知可計
きるへき木丁などもあつけにはやうちかけ

天見以連良留火知可宇止毛之堂利母屋
て見れらる火ちかうともしたり母屋

乃奈可者之羅尔曾者女留人也我心加久留止
のなかはしらにそはめる人や我心かくると

末川女止、免給部八己幾安也乃比止部加左称
まつめとゝめ給へはこきあやのひとへかさね

奈女利奈尔、可安良武宇部尔幾天関之良徒
なめりなに、かあらむうへにきてかしらつ

幾保曾也可尔知以左起人乃物気奈幾春可多
きはそやかにちいさき人の物けなきすかた

【空蟬】 6左

曾多留関本奈止毛佐之武可比堂良武人奈止
そしたるかほなともさしむかひたらむ人など

尔毛王左止三遊末之宇毛天奈之堂利天徒
にもわさとみゆましうもてなしたりてつ

幾世世く止之天以多宇比幾加久之堂女利以末
きやせくとしていたうひきかくしためりいま

一人八日武可之武幾尔天乃己留所奈久三由志呂
一人はひむかしむきにてのこる所なくみゆしろ

幾宇寸物乃比止部加左称不多安比乃己宇知幾
きうす物のひとへかさねふたあひのこうちき

堂川物奈以可之呂尔幾奈之天紅乃己之日起
たつ物ないかしろにきなして紅のこしひき

遊部留幾者末天武称安良者尔者宇曾八奈留
ゆへるきはまてむねあらはにはうそくなる

毛天奈之奈里以止志呂宇於可之許尔徒不く
もてなしなりいとしろうおかしけにつくく

止己部天曾、路可奈留人乃関之羅徒幾比多以
とこへてそゝろかなる人のかしらつきひたい

【空蟬】7右

【空蟬】7左

【空蟬】8右

【空蟬】8左

川幾物安左也可尔末三久知徒幾以止安以幾也宇
つき物あさやかにまみくちつきいとあいきやう

佐宇止計八於久乃人八以止志徒可尔乃止女天未知
さうとけはおくの人はいとすつかにのどめてまち

堂留心知之天者那、止毛安左也可奈留所奈宇
たる心ちしてはな、ともあさやかなる所なう

奈良怒御心八己礼毛衣於本之者奈徒末之可里
ならぬ御心はこれもえおほしはなつましかり

徒幾者奈也可奈留加多知奈利可三八以止不左也可
つきはなやかなるかたちなりかみはいとふさやか

給部也曾己八知尔己曾安良女己能王多利乃
給へやそこはちにこそあらめこのわたりの

祢比連天尔本八之幾所毛見衣須以比多川
ねひれてにははしき所も見えすいひたつ

介利見多末不可起利乃人八字知止計多留与
けり見たまふかりの人はうちとけたるよ

尔天奈可久八安良祢止左加利者加多乃本止以止
にてなかくはあらねとさかりはかたのほといと

己宇遠己曾奈止以遍止以天己乃堂比八末計
こうをこそなといへといてこのたひはまけ

連八王呂幾尔与礼留加多知遠以止以堂宇毛
れはわろきによれるかたちをいいたうも

奈久飛幾徒久呂比曾者女堂留宇者部遠乃
なくひきつくるひそはめたるうはへをの

幾良計尔寸部天以止祢知計堂留所奈久於可
きよけにすへていとねちけたる所なくおか

尔介利寸見乃止己呂く以天く止遠良比遠
にけりすみのところくいてくをよひを

天川希天己乃末左連留人与里八心安良武
てつけてこのまされる人よりは心あらむ

見己曾三給部閑久宇知止計多留人乃安利左満
みこそみ給へかくうちとけたる人のありさま

志計奈留人止見衣堂利武部己曾於也乃世尔
しけなる人と見えたりむへこそおやの世に

加、女天止越者多三曾良曾奈止加曾不流左
かゝめてとをはたみそよぞなどかそふるさ

止女登、女徒部幾左満志堂利尔幾八、志久
とめとゝめつへきさましたりにきはしく

可以末美奈止八末多志堂万八佐利徒留事
かいまなどはまたしたまはさりつる事

奈久八於毛不良女止於可之久美堂末不心知
なくはおもふらめとおかしくみたまふ心ち

満以与乃遊気多毛堂止く之加留万志宇三
まいよのゆけたもとくしかるましようみ

安以幾也宇川幾於可之還奈留遠以与く本己
あいきやうつきおかしけるをいよくほこ

奈礼八奈尔心毛奈宇左也可奈留八以止遠之奈
なればなに心もなうさやかなるはいとをしな

楚奈越志徒可奈留気越曾部者也止布止三
そなをしつかなるけをそへはやとふとみ

遊寸己之志奈遠久礼堂利多止之部奈久、知
ゆすこししなをくれたりたとしへなくち

里可尔宇知止計天王良比奈止曾本留連八
りかにうちとけてわらひなとそほるれば

加良比左之宇見給部末本之幾尔己幾二以天
からひさしう見給へまほしきにこきみいて

遊留可止奈幾尔波安留末之己宇知者天、
ゆるかとなきにはあるまじこちかはて、

於保比天左也可尔毛三世祢止女遠之徒止川遣
おほひてさやかにみせねとめをしつとつけ

尔本比於保久三衣天佐留加多尔以止於可之幾
にほひおほくみえてさるかたにいとおかしき

久留心知春礼八也遠良以天給奴王多止乃、戸
くる心ちすればやをらいて給めわたとの、戸

計知左寸王多利心止計尔三衣天幾者く止
けちさすわたり心にみえてきはくにと

堂礼八遠乃徒可良替者尔三由女寸己之者礼
たれはをのつからそはめにみゆめすこしはれ

人左満奈利安者川介之止八於保之奈可良末女
人さまなりあはつけしとはおほしなからまめ

具知尔与利為給部利以止加多之還奈之止思比
くちによりぬ給へりいとかたしけなしと思ひ

【空蟬】9右

天連以奈良奴人者部利天衣知可宇毛与利者
てれいならぬ人はへりてえちかうもよりは

遍良須左天己与比毛也可遍之天武止春流
へらすさてこよひもやかへしてむとする

以止安左末之宇閑良宇己曾安武介礼止乃給部八
いとあさましくかうこそあへけれとの給へは

奈止天安奈多尔可部利侍奈者多八可利侍
なとてかあなたにかへり侍なはたはかり侍

奈武止幾己遊左毛奈比可之徒部幾介之幾
なむときこゆさもなひかしつへきけしき

尔己曾安良女王良者奈礼止毛乃、心者部人
にこそあらめわらはなれとものゝ心はへ人

乃希之幾三川遍久志徒末礼留止於保春
のけしきみつへくしまれるをとおほす

奈利介利己宇知者天徒留尔也安良武宇知
なりけりこつちはてつるにやあらむうち

曾与女幾天人く安可流、計者比奈止寸
そよめきて人くあかるゝけはひなとす

【空蟬】9左

奈利王可幾三八以徒久尔於八之末寸奈良武此
なりわかきみはいづくにおはしますならむ此

見可宇之八佐之天武止天奈良寸奈利志徒万
みかうしはさしてむとてならすなりしつま

里奴奈利入天佐良八多者可礼止乃多末不已
りぬなり入てさらはたはかれとのたまふこ

乃己毛以毛宇止能御心八堂者武所奈久末女
のこもいもうとの御心はたはむ所なくまめ

多知多連八以比安者世无可多奈久天人春久
たちたれはいひあはせんかたなくて人すく

奈、良武於利尔以連多末末川良武止於毛不
なゝらむおりにいたてまつらむとおもふ

成介利幾乃可三乃以毛宇止毛己奈多尔安留可
成けりきのかみのいもうともこなたにあるか

我耳可以末見世左勢与止乃堂末部八以可天
我にかいま見せさせよとのたまへはいかて

可佐者侍良武加宇之尔八幾知也宇曾部天侍止
かさは侍らむかうしにはきちやうそへて侍と

【空蟬】10右

幾己遊左可之左礼止毛止於可之久於保世止
きこゆさかしされともとおかしくおほせと

三川止八志良世之以止遠之登於本之天夜不
みつとはしらせしいとをしとおほして夜ふ

久留事乃心毛止奈左越乃多末不已乃度者
くる事の心もとなさをのたまふこの度は

徒末止遠多、幾天以流三奈人く志徒末利
つまとをたゝきているみな人くしつまり

称尔介利己乃佐宇之久知尔末呂者称多
ねにけりこのさうしくちにまろはねた

良武風吹止越世止天堂、三日呂気天不春
らむ風吹とをせとてたゝみひろけてふす

己堂知日武可之乃比左之尔以止安末多称
こたちひむかしのひさしにいとあまたね

堂留部之止者奈知徒留主良者部毛曾奈多
たるへしとはなちつるわらはへもそなた

尔入天不之奴連八止八可利曾羅称之天火安可
に入てふしぬれとはかりそらねして火あか

【空蟬】10左

幾加多尔日也宇婦遠比呂遣天影本乃可奈留尔
きかたにひやうふをひろけて影ほのかなるに

也遠良以連堂天万徒留以可尔曾於己可満之幾
やをらいたてまつるいかにそおこましき

事毛己曾止於保寸尔以止川、末之介礼止
事もこそおほすにいとつゝましけれと

三知比久末、尔毛也乃木丁乃加多飛良
みちひくまゝにもやの木丁のかたひら

比幾安遣天以止屋者良以利給止春礼止三奈
ひきあけていとやはらいり給とすれとみな

志徒末礼留夜乃御曾乃遣者比也者良可
しまれる夜の御そのけはひやはらか

奈流之毛以止志留加利介利女八左己曾和春
なるしもいとしるかりけり女はさこそわす

連給不遠宇礼之幾尔於毛比奈世止安屋
れ給ふをうれしきにおもひなせとあや

志久夢乃也宇奈留事遠心尔者奈類、
しく夢のやうなる事を心にはなるゝ

【空蟬】11右

於利奈起己呂尔天心止計多留以堂尔称良
おりなきころにて心とけたるいたにねら

連寸奈武日留八奈可女与留八称左女可知
れすなむひるはなかめよるはねさめかち

奈礼八奈奈良奴己乃女毛以止奈久奈計可之
なれば春ならぬこのめもとなくなけかし

幾尔基宇知徒留幾三今夜八己那多尔
きに基うちつるきみ今夜はこなたに

止以末女可之久宇知加多良比天称尔介利
といまめかしくうちかたらひてねにけり

王可幾人八奈尔心奈久以止与久満止呂三
わかき人はなに心なくいとよくまところみ

堂留部之加、流気者比乃以止加宇八之久
たるへしかゝるけはひのいとかうはしく

宇知尔本尔可本遠毛多計堂留尔飛止部
うちにはふにかほをもたけたるにひとへ

宇知可計堂留幾丁乃寸起末尔久良遣
うちかけたるき丁のすきまにくらけ

【空蟬】11左

礼止宇知見之呂幾与留計者比以止志流之
れうちみしろきよるけはひいとしるし

安左満志久於保衣天止毛加久毛思王可礼寸也
あさましくおほえてともかくも思わかれすや

遠良於幾以天、寸、之奈留比止部飛止川遠
をらおきいて、すゝしなるひとへひとつを

幾天春部利以天尔介利君八以利給天堂、飛
きてすへりいてにけり君はいり給てたゝひ

止利不之堂留越心也寸久於保寸遊可能志毛尔
とりふしたるを心やすくおほすゆかのしめに

二人八可利留布之堂留幾奴遠、之屋利天
二人はかりそふしたるきぬを、しやりて

与利給部留尔安里之遣者比与利八毛乃く
より給へるにありしけはひよりはものゝく

志久於保遊連止於本之毛与良須可之幾多
しくおほゆれとおほしもよらすかしいきた

奈起左満奈止楚安也志久加者利天也宇く
なきさまなどそあやしうかはりてやうく

【空蟬】12右

見安良八之給天安左末之久心也末之遣礼止
見あらはし給てあさましく心やましけれと

人多可部止堂止利天見衣武毛於己可万志久
人たかへとたとりて見えむもおこましく

安屋之止思不遍之本為乃人遠尋与良武
あやしと思ふへしほぬの人を尋よらむ

毛加八可利乃可留、心安女連八可比奈久於己尔
もかはかりのかるゝ心あめれはかひなくおこに

己曾於毛者女止於保寸可乃於可之加利徒留
こそおもはめとおほすかのおかしかりつる

本可計奈良波以可、八世武尔於本之奈留毛士呂
ほかけならはいかゝはせむにおほしなるもわろ

幾御心安佐、奈女利可之也宇く女左免天以
き御心安さゝなめりかしやうくめさめてい

登於保衣寸安左末之幾尔安起連多留計
とおほえすあさましきにあきたるけ

色尔天奈尔乃心不可久以止遠之幾与宇為毛
色にてなにの心ふかくいとをしきようぬも

【空蟬】12左

奈之世中遠末太於毛比志良奴本止与利者
なし世中をまたおもひしらぬほとよりは

左礼者美堂留加多尔天安部可尔毛於毛比未止
されはみたるかたにてあへかにもおもひまと

者寸我止毛志良世之止於毛本世止以可尔
はず我ともしらせしとおもほせといかに

志天閑、流事曾止乃知尔於毛比女久良
してかゝる事そとのちにおもひめくら

左武毛我多女尔八古止尔毛安良称止安能川
さむも我ためにはことにもあらねとあつ

良幾人乃安奈可知尔世越徒、武毛左寸可尔
らき人のあなちに世をつゝむもさすかに

以止遠之介礼八堂比く乃御可多堂司部尔己止川
いとをしければたひくの御かたかへにことつ

希給之左満遠以止与宇以比奈之給不本止良武
け給しさまをいとういひなし給ふたとらむ

人八心衣徒部介礼止末太以止王可起心知尔左
人は心えつへけれとまだいとわかきせちにさ

【空蟬】 13右

【空蟬】 13左

【空蟬】 14右

【空蟬】 14左

己曾佐之過多留屋宇奈礼止衣之毛思王可春
こそさし過たるやうなれとえしも思わかす

給不人志利堂留事与里毛加也宇奈留八安八
給ふ人しりたる事よりもかやうなるはあは

天人尔志良世波己曾安良女己乃知以左起宇部人
て人にしらせはこそあらめこのちいさきつへ人

安利可世給止左可之加利天止左満部久以止尔
ありかせ給とさしかかりてとさまへくいとに

尔久之止八奈介礼止御心止末留部幾遊部毛
にくしとはなれと御心とまるへきゆへも

連毛曾不已止、奈武無可之乃人毛以比介留
れもそふことゝなむむかしの人もいひける

耳徒多部天幾古衣武介之幾毛奈久毛天奈之
につたへてきこえむけしきもなくもてなし

久、天安良寸古、毛止部以徒留留止天君遠、
くゝてあらずこゝもとへいつるそとて君を、

奈起心知之天奈越可乃宇礼堂幾人乃心遠
なき心ちしてなをかのうれたき人の心を

安比於毛比給部与徒、武事奈起尔之毛
あひおもひ給へよつゝむ事なきにしも

多末部奈止以比遠幾大可乃奴幾寸部之
たまへなといひをきてかのぬきすへし

志以天堂天万徒留尔晓知可起月久万奈久
しいてたてまつるに曉ちかき月くまなく

以三之久於保寸以徒己尔者以未起連天
いみしくおほすいつこにはいまされて

阿良称八身奈可良心尔毛衣満可寸末之久
あらねば身なから心にもえまかすましく

堂留宇寸幾己呂毛越止利天以天太末比奴
たるつすきころもをとりていてたまひぬ

佐之以天、布止人乃可希三衣介礼八又於者
さしいてゝふと人のかけみえければ又おは

可多久奈之止於毛比為多良武可久志宇称幾
かたくなしとおもひぬたらむかくしうねき

奈武安利遣留末多佐留部幾人く毛遊留左
なむありけるまたさるへき人くもゆるさ

己君知可久婦之堂留越於己之給部八宇之路
こ君ちかくふしたるをおこし給へはうしろ

寸留八堂懸止、婦民部少輔乃遠毛止奈女利遣
するはたそとゝふ民部少輔のをもとめりけ

人八安利加多幾物遠止於保寸尔之毛安也
人はありかたき物をとおほすにしもあや

連之加之止可称天武称以堂久奈武和春礼
れしかしとかねてむねいたくなむわすれ

女堂宇於毛比徒、称介礼八不止於止呂幾奴
めたうおもひつゝねければふとおとろきぬ

志宇八安良奴遠毛止能堂計多知可奈登以不
しうはあらぬをもとのたけたちかなといふ

尔久尔満幾礼可多久思以天良礼給不已乃人
にくにまされかたく思いてられ給ふこの人

天待給部与奈止奈越く之宇閑多良飛給
て待給へよなどなをくしうかたらひ給

止越也遠良遠之安久留尔老多留己多知能
とをやをらをしあくるに老たるこたちの

堂計多可幾人乃川称尔王良者留、遠以不奈利
たけたかき人のつねにわらはるゝをいふなり

乃奈尔心奈久王可也可奈留遣者比毛安者礼奈
のなに心なくわかやかなるけはひもあはれな

人乃於毛比侍良武事乃者川可之幾耳奈武
人のおもひ侍らむ事のはつかしきになむ

己惠尔天堂曾止於止呂く志久止不王川良
こゑにてたそとおとろくしくとふわつら

介利於以人己礼遠川良称天安利幾介留止於毛比
けりおい人これをつらねてありきけるとおもひ

連八左寸可尔奈左計く志久知起利遠可世
れはさすかになさけくしくちきりをかせ

衣幾己衣左寸末之幾止宇良毛奈久以不奈部
えきこえさすましきとすらもなくいふなへ

者之久天末路曾止以不夜奈可尔己八奈楚
はしくてまろそといふ夜なかにこはなそ

天以満多、以末立奈良比多満比奈武止以なく
ていまたゝいま立ならひたまひなむといふく

【空蟬】15右

【空蟬】15左

【空蟬】16右

【空蟬】16左

王礼毛己乃止与里以天、久王比之氣礼登
われものことよりいて、くわひしけれと

堂末不奈越可、流安利幾八可呂く之久安也
たまふなをかくるありきはかろくしくあや

己曾奈止心徒幾奈之止思比天乃多末不安利
こそなと心つきなしと思ひてのたまふあり

奈良比乃屋宇尔加幾寸左三給不
ならひのやうにかきすすみ給ふ

衣者多遠之可部左天王多止乃、久知尔可比
えはたをしかへさてわたとのくちにかひ

宇加利介利止以与く於本之己里奴部之小君
うかりけりといよくおほしこりぬへし小君

徒留古宇知幾越左寸可尔御楚能志多尔比幾
つるこうちきをさすかに御そのしたにひき

宇徒世三能身越可部天氣留木乃毛止尔
うつせみの身をかへてける木のもとに

曾比天加久礼堂知給部連八己乃遠毛止左之
そひてかくれたち給へはのをとさし

御車乃志利尔天二條院耳於八之末之奴
御車のしりにて二條院におはしましぬ

以連天於本止乃己毛礼利己幾三遠御末部尔
いれておほとこのこもれりこきみを御まへに

奈越人可良乃奈徒可之幾可奈止加幾給部留越
なを人からのなつかしきかなとかき給へるを

与利天遠毛止八今夜八字部尔也左不良比給部留
よりてをとは今夜はうへにやさふらひ給へる

安利左満乃多末比天遠左奈可利介利止安者
ありさまのたまひてをさなかりけりとあは

布勢大与呂徒尔宇良三加徒八可多良比太末不
ふせてよろつにうらみかつはかたらひたまふ

布止己呂尔比幾以連天毛多利可乃人毛以可
ふどころにひきいれてもたりかの人もいか

遠止、比与利者良遠也三天以止王利奈介礼
をと、ひよりはらをやみていとわりなけれ

女給天可乃人乃心遠徒万八之幾越志徒、宇良
め給てかの人の心をつまはしきをしつゝうら

安己八羅宇太介礼止川良幾遊可里尔古曾衣
あこはらうたれとつらきゆかにこそえ

尔於毛者武止以止越之介礼止閑多く於本之
におもはむといをしけれどかたくおほし

者志毛尔侍徒留遠人寸久奈奈利止天女之
はしめに侍つるを人すくななりとてめし

見給不以止遠之宇天物毛幾己衣須以登不
み給ふいとをしうて物もきこえすいとふ

於毛比者川末之介礼止末女也可尔乃多末不
おもひはつましきれとまめやかにのたまふ

可遍之天御己止川氣毛奈之可乃宇寸幾奴八
かへして御ことつけもなしかのうすきぬは

志可者与部末宇乃本立志可止猶衣堂不末之
しかはよへまうのほりしかと猶えたふまし

可宇尔久三給部可女連八身毛宇久於毛比者天
かうにくみ給へかめれは身もつくおもひはて

遠以止王比之止思比堂利志八之宇知也寸三
をいとわひしと思ひたりしはしうちやすみ

己宇知幾乃以止奈徒可之幾人加耳志女留越
こうちきのいとなつかしき人かにしめるを

久止奈武宇連不以良部毛幾可天安奈者良く
くとなむつれふいらへもきかてあなはらく

奴奈止可与曾尔天毛奈徒可之幾以良部八可利八
ぬなとかよそにてもなつかしきいらへはかりは

給部止称良連給者寸御寸、里以曾幾女
給へとねられ給はす御すゝりいそきめ

身知可久奈良之天三為給部利己幾三加之
身ちかくならしてみぬ給へりこきみかし

以満幾己衣无止天過奴留尔可羅宇之天以天
いまきこえんとて過ぬるにからうしていて

志多末不末之幾以与乃春計尔於止利遺留身
したまふましきいのすけにおとりける身

之天佐之者部堂留御不三尔波安良天堂、天
してさしはへたる御ふみにはあらてたゝて

古尔以幾多連八安称君未知徒介天以三之
こにいきたれはあね君まちつけていみし

【空蟬】17右

久乃多末不安左末之加里之尔止可久未起良
くのためふあさましかりしにとかくまきら

者之天毛人乃於毛者武事左利所奈幾尔
はしても人のおもはむ事さり所なきに

以止奈武王利奈幾以止可守心於左奈幾心者部
いとなむわりなきいとかう心おさなき心はへ

遠可川八以可尔於保寸良武止天者川加之免
をかつはいかにおほすらむとはつかしめ

給不比掌利見幾尔久流之久於毛部登可乃
給ふひたりみきにくるしくおもへとかの

御天奈良比止利以天堂利左寸可尔止利天見
御てならひとりいたりさすかにとりて見

堂末不可乃毛奴計遠以可尔伊勢遠乃安方能
たまふかのぬけをいかに伊勢をのあまの

志本奈礼天也奈止思不毛堂、奈良寸以止与
しほなれてやなと思ふもたゝならすいとよ

路徒尔三多礼天尔之乃君毛物者川可之幾心
ろつにみたれてにしの君も物はつかしき心

【空蟬】17左

知之天王多利給尔介利又志留人毛奈幾事
ちしてわたり給にけり又しる人もなき事

奈礼八人志連須宇知奈可女天井堂利己君乃
なれば人しれすうちなかめてゐたりこ君の

王多利安利尔徒介天武称乃三多加礼登
わたりありくにつけてむねのみふたかれと

御世宇曾己毛奈之安左末之止思比宇留加多毛
御せうそこもなしあさましと思ひうるかたも

奈天左礼堂留心知尔物安者礼奈留部之
なくてされたる心ちに物あはれるへし

川連奈幾人毛左己曾志川武連止以止安左八
つれなき人もさこそしつむれといとあさは

可尔毛安良奴御氣之幾遠安里之奈可良能
かにもあらぬ御けしきをありしなからの

我身奈羅者止止利可部寸物奈良称止志
我身ならはととりかへす物ならねとし

乃比加多介礼八己乃御多、宇可美乃可多徒
のひかたければこの御たゝうかみのかたつ

【空蟬】17左

加多耳
かたに

宇徒世見乃者尔遠久露乃本可久礼帝
うつせみのはにをく露の木かくれて

志乃比く尔奴留、袖可那
しのひくゝにぬるゝ袖かな

此一帖雖非無尉酌頻所望之
間不獲止呵凍硯染禿筆矣

延徳第二載臘月中澣（花押）